

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
1	計画全般		広島平和公園に「安らかに眠って下さい過ちは繰り返させぬから」とあります。絶対に繰り返さないための展示をお願いします。	D	長崎原爆資料館では、常設展示の入り口に、館からのメッセージとして「長崎を最後の被爆地に」を掲げています。今回の展示更新においても、館の基本理念や目的は変わらず、時代の変化に応じた展示を目指してまいります。
2	計画全般		原爆への正しい理解をして頂けるように、どんな状況にあっても原爆を落とす理由にはならないことを日本人の立場にたった説明の書き方などをして頂きたいです。	C	展示の詳細な内容については、今後の設計段階において、引き続き運営審議会・小委員会を中心に、慎重かつ丁寧な議論を重ねていきたいと考えています。いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。
3	計画全般		○原爆資料館と周辺施設・周辺遺構との連携 リアルな資料館の役割は何か。それはこれまで述べてきた、周辺施設との連携や周辺遺構の活用により、パッケージとしてその意義・機能を高めることである。被爆者の証言、遺品や遺構からその実相を想像するという体験は現地ではできない。そして、被爆者はもちろん、証言の会の案内人や長崎市のボランティア・平和案内人などもその重要な人的リソースも活かしていきたい。	C	周辺施設・周辺遺構との連携については、展示更新の方針 1－(7)－イ－(イ) のとおり、周辺の被爆遺構への誘導機能を充実させることとしています。また、第 8 章 中長期的な取組み 1－(3)－ア「平和案内人などのボランティアの方々と情報の共有、人材育成などについて展示更新後も継続的に取り組む」としており、いただいたご意見は、今後の運営の参考にさせていただきます。
4	計画全般		戦後80年が1年弱に迫っているさなか今、世界に目を向ければロシアによるウクライナ進攻が長期化したり、イスラエルとハマスガザ地区の軍事衝突が激化し多くの負傷者がニュースで報道されております。 そんな中、これからの長崎原爆資料館の展示方法を変えて行った方がいいのではないかと感じております。 それは、いままでは先の大戦や戦争を経験している世代や広島・長崎の被爆者が高齢化が進み、年々「戦争が招く悲惨な現象核兵器が使用されたらどのような悲劇が起きるのか」と言った事が後世に伝える機会が減り、数年後には直接そう言った経験を聞く機会なくなります。 そう言ったとき、原爆資料館に核兵器が使用されたときの被害や人に与える影響以外にも先の大戦のことや広島・長崎核兵器に使用されるまでの経緯や被爆のこと戦争を何故してはいけないのか。と云った戦争を知らない子供たちにどのような形に後世に残していくのかといったことが原爆資料館には必要だと感じています。	B	いただいたご意見の趣旨は、第 2 章 計画策定の趣旨や、第 4 章 展示更新にかかる基本方針でお示している展示更新の方向性と同じであると認識しています。展示の詳細な内容については、今後の設計段階において検討してまいります。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
5	計画全般		今回の展示施設の方針ですが、いささかも「政治的」なものを持ち込むべきではありません。 素晴らしい長崎の風景が変容し、反感を持たれかねません。 私は、別の所で、「原爆で溶けたロザリオ」の事実展示を拝見し、生涯忘れえぬ記憶となっております。「展示」とは、長崎の風景と共にあることもお忘れなく お願い申し上げます。	C	展示の詳細な内容については、今後の設計段階において、引き続き運営審議会・小委員会を中心に、慎重かつ丁寧な議論を重ねていきたいと考えています。いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。
6	計画全般		形成過程も含め韓国・朝鮮人被爆者など在外被爆者、 被爆二世のことも含めて被爆者課題、 強制連行され原爆死した中国人、について展示する。	C	いただいたご意見は、「被爆者の訴え」のコーナーにおいて関連する内容を展示していますが、被爆の実相に関するAコーナー及びBコーナーについては、現在、被爆資料の整理と各資料にまつわる背景やエピソードの追加聞き取り調査を行っており、展示への反映には時間を要します。現在、学芸員を中心に調査・情報の整理を進めており、今回いただきましたご意見については、今後の検討の際に参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
7	計画全般		<p>加害者の側面も加えることには大賛成です。それに加え、私は以下の2つの点についても考慮願いたいと思っています。1つ目は核兵器の非人道性を他の戦争被害と差別化して展示、もう1点は被害の大きさがわかるように、よく知られている都市に置き換えての展示です。</p> <p>現在の展示で、色々な戦争被害、例えばウクライナやガザ地区での悲惨さと区別ができていますでしょうか。もちろん、戦争は良くないことですが、原爆資料館は核兵器の「悪」を主張すべき所ではないでしょうか。核被爆地長崎の資料館からは、「核兵器は絶対ダメ」と発信しなければなりません。そして、そう言わしめる展示が必要になるのです。核兵器の「悪」とは核兵器特有の非人道性です。それは、核兵器はその使用自体が、民間と軍事施設の区別をしないという点と放射線の影響が長くそして広く残るという点です。一般兵器だと、民間人を避け軍事施設だけを狙うことが理論上可能です。しかし、核兵器は民間人の犠牲を無くすことを考慮できないのです。展示方法としては、被爆当時の被爆範囲とそこの中にあつた軍事関連施設を地図で示し、またそれらの面積を数字で表して比較します。そして、「この数%の軍事施設を破壊するために残りの何%もの地域に住む民間人が犠牲になりました」というコメントをつけるといいのではないのでしょうか。次の「放射線の影響が残る」という点ですが、これはすでに資料もあると思います。癌の発生率を示せばいいと思います。</p>	C	<p>展示の詳細な内容については、今後の設計段階において、引き続き運営審議会・小委員会を中心に、慎重かつ丁寧な議論を重ねていきたいと考えています。いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への反映等	長崎市の考え方
8	計画全般		「被害の大きさがわかるように、よく知られている都市に置き換えて展示」することです。今の資料館には長崎市のジオラマがあってそこで被害の状況を詳しく説明しています。しかし、当地に初めて来た人は土地勘がないので広さは実感できません。大谷翔平選手の母校花巻東高校のある花巻市と彼の出身地である奥州市がどのくらい離れているかほとんどの人が想像つかないでしょう。これと同じです。そこで、核保有国で核兵器禁止条約に加盟していない国の首都に限定して、長崎級の原爆が落ちたら被害範囲はどうなるか、また、いま世界にある核兵器の標準のものが墜ちたら被害はどうなるかを併せて展示するのです。被害の大きさが実感でき、その範囲の中で展示しているような悲惨なことが起こり、さらに現在ではそれより何百倍もの範囲で被害が出ると思えば、核兵器の廃絶に目を向けるのではないのでしょうか。	C	展示の詳細な内容については、今後の設計段階において、引き続き運営審議会・小委員会を中心に、慎重かつ丁寧な議論を重ねていきたいと考えています。いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。
9	計画全般		原爆資料館を見学した子どもの感想として「日本は世界に謝らないといけないと思った」という感想が見られ、素直な子どもたちがこのような感想をもつことは大変悲しいことだと感じました。被爆からの復興の歴史についてや、核兵器廃絶のために努力・貢献した人々がクローズアップされた展示など、多面的な展示がされていくことで「自ら平和を考え、行動することに繋がる資料館」になっていくことを期待します。	C	展示の詳細な内容については、今後の設計段階において、引き続き運営審議会・小委員会を中心に、慎重かつ丁寧な議論を重ねていきたいと考えています。いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。
10	計画全般		素案の方向性に賛成します。「自ら平和を考え、行動することにつながる資料館」を目指すことはとても画期的なことと思います。そのためには、今の展示では不十分であると考えています。現在の資料館を見学した子供から、「怖い」「原爆のことは考えたくない」という意見を聞いたことがあったためです。素案に盛り込まれていた復興までの道のり、医学の成果等、現代の希望を示すことこそが、目指す資料館の姿につながるのではないかと思います。期待しています。	B	ご意見のとおり、計画記載の内容にそって検討を進めてまいります。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への反映等	長崎市の考え方
11	計画全般		私は被爆二世です。この資料館には、事実を示す物・情報だけを展示して頂きたい。それにより「なぜ投下されたのか？ どうしたら廃絶できるのか？」を投げかけるに留めてほしい。核の開発・配備の状況や平和活動についての展示は、どの国・人に主眼を置くかによって内容や表現が偏ります。例えば「過ちは繰り返させぬから」という慰霊碑の碑文も選定者の意図とは異なるとしても、現に“日本が過ちを犯した”意味に捉えられがちです。ひいては、真珠湾攻撃と原爆投下、重慶爆撃と日本無差別爆撃などを同列に並べるような扱いは不適切です。それらの目的・対象や規模は全く異なりますから。そのため原爆について、誰が落としか、誰にどんな被害があったのか、現在は誰にも影響が無いのか、のみを明確に展示願います。	C	展示の詳細な内容については、今後の設計段階において、引き続き運営審議会・小委員会を中心に、慎重かつ丁寧な議論を重ねていきたいと考えています。いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。
12	計画全般		「現在」の社会や技術に引きずられすぎない展示 30年前には新しかった展示も、今となっては古さを感じるようにその展示や技術は時代とともに陳腐化します。できるだけ、本物の資料をシンプルに展示してもらいたいです。また、今の社会情勢や先鋭的な声に展示内容や検討の場が翻弄されてもほしくありません。	C	展示の詳細な内容については、今後の設計段階において、引き続き運営審議会・小委員会を中心に、慎重かつ丁寧な議論を重ねていきたいと考えています。いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。
13	計画全般		時間をかけた検討・議論、長期的な視野を 今回の展示内容更新は被爆80周年記念事業として2025年完成を目指しているとのことですが、あわせていずれ必要となる大幅な改装も視野に、引き続き、市民や被爆者、有識者、諸団体なども交えてこれからの原爆資料館がどうあるべきか、検討を重ねていくようお願いします。	B	第8章 中長期的な取組み2の「将来的な建替えや大規模改修に向けた対応」に記載のとおり、中長期的な課題の整理・対応についても、引き続き検討してまいります。
14	計画全般		今回示されている展示更新基本計画素案は、何を、どうしたいのかあいまいで、分かりにくい。単なる80周年に向けてのパフォーマンスであれば、税金のムダ。止めた方がよい。本当に改善の余地があるところに取り組んでほしい。例えば、本館には、海外、県外、子ども、老人・・・様々な方が来館されます。それらに対応できる案内になっているか、初めて訪れる人の目線で全てを見なおしてほしいものです。せめて、出口の各所に意見・感想箱を設置することで職員関係者が気付かない点を指摘してもらったりもできます。	D	現在エントランスには来館者アンケートを設置しており、加えてWebアンケートにより随時ご意見をいただけるようにしています。今後の館の運営にあたって初めて訪れる方にとってもわかりやすい案内等、改善に努めてまいります。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への反映等	長崎市の考え方
15	計画全般		いかなる理由があろうとも、一瞬で全てを奪ってしまう原爆を使用することは、あってはならないことだとは、全くその通りだと思います。それで全世界から原爆保有を無くすと云うメッセージを伝える展示にしてもらえたらと思います。	B	原爆資料館の目的として、「本市は、原子爆弾により被爆した都市の使命として、被爆の実相と長崎市民の平和への願いを広く国内外に伝え、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に寄与する」ことを掲げており、ご意見の趣旨は素案の方向性と同じであると認識しています。展示の詳細な内容については、今後の設計段階において検討してまいります。
16	計画全般		資料館の展示内容は公平な立場で研究・製作されているもので、いかなる力によって曲げられるべきものではありません。	C	展示の詳細な内容については、今後の設計段階において、引き続き運営審議会・小委員会を中心に、慎重かつ丁寧な議論を重ねていきたいと考えています。いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。
17	計画全般		原爆を通して、平和な世界を考えられる方針で検討してほしい。(※核兵器がないだけでなく、世界が平和になるために)	C	今回の展示更新により目指す姿として、「原爆の被害を遠い昔の出来事ではなく、今の自分にも起こりうることとして受け止め、自ら平和を考え、行動することにつながる資料館」となるよう検討を進めてまいります。いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
18	計画全般		<p>○更新基本計画の目的の核である「自分事としてとらえ、どう行動するか」について</p> <p>○小学生への展示の工夫と平和への行動について～子どもは憧れと誇りにのみ、行動を始める～小学校社会科の目標は、「主体的に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者の育成」「地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、将来を担う国民としての自覚、世界の人々と共に生きていくことの大切さの自覚を養う」(小学校社会科指導要領)また、教育基本法の第1条「教育の目的」には、「平和的な国家と社会の形成者を育成する」この教育の目的に向かって小学校では、1年から発達段階に応じて系統的に指導している。例えば、1年：生活科では、家庭でお手伝いをさせる 2年：生活科では、町など地域の為に働くおまわりさんや役場の人 3年：社会科では、範囲が市に広がり、消防署で働く人 4年：社会科では、範囲が県に広がり、郷土の偉人 5年：社会科では、範囲が日本に広がり、産業（農業、工業） 6年：社会科では、日本の歴史を調べる。子どもたちは、家族や地域の方、警察官、消防士など社会に対し貢献したいという熱く強い思いを知ることで、その人たちに憧れと尊敬・誇りの念を抱く。家庭の一員として、地域の一員として、社会の一員としてのどう行動するのか、したいのか、すべきなのか・・・少しずつ自覚を強くしていくのです。子どもは純粹ですから、憧れた人へ少しでも近付きたいと強く反応します。</p> <p>しかし、原爆資料館で大変残念なのは、C-1「日中戦争と太平洋戦争」の動画です。あの動画を見た子どもの気持ちを考えてみてもらいたいです。人に対してどう思うでしょうか。</p>	C	<p>第6章 展示更新の方針1-(7)ーウに記載のとおり、長崎の復興の歴史についても充実させるよう検討してまいります。いただいたご意見につきましては、今後の設計における検討の参考とさせていただきます。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
			<p>これまでコツコツと積み上げて来た人間への信頼感・憧れはひっくり返され、人に対して不信感を持ち、大きく傷跡を残すことは容易に理解できるでしょう。日本人である誇りは根底から覆され、諦めの念すら持ちます。動きは硬直し固まります。私たち大人が本当にやらなければならないことは、偏った史実ばかり強く言う人に振り回され、身動きがとれないひたすら反省して、黙る人間をつくることではないはずです。面倒くさいことから逃げる人間をつくることでもありません。平和に向けて、勇気を持って一步踏み出す強い人間を育てること。そのためには、白血病の病に侵されながら、長崎の復興に向けて救護活動・執筆活動を鬼人の如く続けた永井隆博士や秋月辰一郎など長崎の平和のヒーローを紹介すること。(博物館に集約するのではなく) こんなにも強くてカッコいい人が長崎にいたんだ、長崎だけでなく焼け野が原だった日本を必死で復興へ導いた人をドラマチックに紹介すること。なぜ、鬼滅の刃の煉獄さんが人気なのでしょう。なぜ、大谷翔平選手が人気なのでしょう。子どもは、憧れとともに動き始めます。子どもは、ああなりたいと思って、真に動き始めます。二重跳びに挑戦するときも、逆上がりに挑戦するときも、跳び箱に挑戦するときも、その原動力は、憧れです。勇気のある生き方に憧れます。それは、1年生でも理解できます。長崎にはきつともっているはず。あの焼け野が原からの復興をめざして、正義と勇気をもって行動した名も無い長崎のヒーローはいるはず。そのロールモデルを展示することで、長崎の平和のヒーローは、どんどん生み出されると思います。原爆資料館に行くと、「勇気が出る、明日から頑張ろうと思える」という心から湧き出る子どもの感想、何度も足を運ぶ、その子に影響を与えるような場所になったとしたら、その教育的効果やその波及は計り知れません。子どもの未来をつくる原爆資料館になることを信じております。</p>		

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
19	計画全般		すぐ子供たちが平和を考える上で、史実かどうかは正直よくわからないという印象です。ただ子供たちは、長崎や日本に対しての愛着や誇りを持つ歴史を知ることが、郷土愛ひいては少子高齢化にもつながるのではないかと考えています。飛躍するかもしれませんが、本気で子供たちが平和を希求する精神を養うために、未来志向の平和を作っていく長崎になる為の展示が良いのではないかと感じます。	C	展示の詳細な内容については、今後の設計段階において、引き続き運営審議会・小委員会を中心に、慎重かつ丁寧な議論を重ねていきたいと考えています。いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。
20	計画全般		最近の被爆体験講話で、終盤に「原発反対」の意見を述べる方が多いです。政治的な中立に疑問を感じます。九州は玄海原発があり働いている方もいます。何より恩恵を受けています。原発は核の平和利用という一面もあるにも関わらずです。今の素案には原発に触れることはないようですので、それは守っていただきたいです。	D	核兵器廃絶に寄与するという館の設置目的に即した展示とする方向で検討してまいります。
21	計画全般		資料館を観終わった後の子供達はとにかく暗いです。本当にそれでいいのか？と思います。もっと、長崎の人達が助け合ったり、励まし合って、今の平和な町を作った歩みを展示し、自分達のお祖父ちゃんお祖母ちゃんは被爆したけど頑張ってきたんだ、と思えるような展示を望みます。	C	展示の詳細な内容については、今後の設計段階において、引き続き運営審議会・小委員会を中心に、慎重かつ丁寧な議論を重ねていきたいと考えています。いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。
22	計画全般		平和教育で原爆資料館を訪れた際に、子供たちが真剣に向き合う表情を見てきました。今まで少し疑問を感じていたことが、今回の素案で改善されたように感じます。これからは未来志向の展示をしてほしいと思いますので、来場者に花をプレゼントするなど、平和の芽を広げていこうような工夫もあっていいと思いました。日本人による日本人の為の展示が一番いいと思いますし、それ以外の介入は絶対にあってはならないと思います。	C	平和の芽を広げる工夫については、館の運営において、今後の参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
23	第2章 基本計画 の概要		計画策定の趣旨にあった、「核兵器の使用は現実的な選択肢」としながら「被爆者の思いを伝え続ける」というのは、理解に苦しみます。百歩譲って核兵器の所持は現実的選択肢としても、被爆者の思いを考えたら使用はできないと考えることこそ、被爆都市長崎の採るべき立場であると信じます。	D	ご指摘の内容は、第2章 基本計画の概要－1 計画策定の趣旨において「ウクライナ危機が長期化するとともに、イスラエル・パレスチナ情勢が深刻化し、核兵器の使用が現実的な選択肢の一つであることを示唆されており、核兵器を巡る国際情勢は緊迫度を増している。」と表現している箇所がありますが、これは、核保有国の要人による発言等を捉えて記載したものであり、長崎市の考えを表したものではありません。長崎市としましては、「核兵器は絶対に使用してはならない」というメッセージにつながる展示を目指してまいります。
24	第2章 基本計画 の概要		6ページ：「ウクライナ危機」を「ウクライナ戦争」に改める。すでに危機を乗り越えて戦争になっている。	D	ご意見の点は、第2章 基本計画の概要－1 計画策定の趣旨において、現状を述べたものであり、未だ呼称については定着していませんので原案どおりとします。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
25	第2章 基本計画 の概要		<p>素案8pでは、「(1) 取組みの優先順位」で、「Cコーナー及びDコーナーを中心に展示更新を行う。」とあるが、20pの構成案にみるように、スロープ部分とBコーナーの一部も更新の対象となっていることもあり、「Cコーナー及びDコーナーを中心に展示更新を行うが、他のコーナーについても修正の必要がある部分については更新を行う」といったことにしてほしい。</p> <p>具体的には、展示物のキャプション的なものについては加除修正を行ってほしい。最低限、原爆資料館の学芸員にきちんと点検をしてもらい、その意見を反映するようにしていただきたいと考える。</p> <p>また、特に明らかに問題があるものなどは修正していただきたい。例えばだが、「江戸時代の鎖国下、オランダ、中国を通じて海外に開かれた唯一の窓口となった『長崎』』といった記述がある。「唯一の窓口」は「貴重な窓口」に変えるか、「窓口の一つであった『長崎』』といった修正はしておいてほしい。原爆資料館のWebサイトにはそのような記述があるが、パンフレットでは「オランダや中国との貿易港、海外文化の伝来地として発展しました」とあり、この記述の方が適当でしょう。</p> <p>以前、他の展示施設でも同様な記述があったので、一度点検してほしいことは発言したことがある。部局が違うのではと言われていたが修正されているものと思い込んでいた（指摘され、修正されていなかったことを見過ごしてしまっていたことに気がついた）。</p>	C	「3 取組みの優先順位・更新対象」に記載のとおり、Aコーナー及びBコーナーについては、現在、被爆資料の整理と各資料にまつわる背景やエピソードの追加聞き取り調査を行っており、展示への反映には時間を要します。現在、学芸員を中心に調査・情報の整理を進めており、今回いただきましたご意見については、今後の検討の際に参考とさせていただきます。
26	第2章 基本計画 の概要		第2章基本計画の概要で、「時代の変化に対応した展示に見直す必要がある」というのに強く賛成した。	B	ご意見のとおり、計画記載の内容にそって検討を進めてまいります。
27	第3章 検討内容		13ページ：「1.歴史をきちんと見つめることが未来につながる、という姿勢に基づいて検討する。」を「1.歴史をきちんと見つめることが未来につながる、という姿勢に基づいた展示とする。」に改める。	D	ご意見いただいた箇所につきましては、第3章 長崎原爆資料館運営審議会 小委員会での検討内容－2小委員会各論点のまとめとして、委員の発言の趣旨を踏まえて議論の結果を記載しているものであり、修正は行いませんが、第6章 展示更新の方針1－(3)－イ－(ア)「姿勢に基づいて検討する。」については、「姿勢に基づいた展示とする。」へ修正します。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
28	第3章 検討内容		<p>13ページの3と22ページの(3)のイの(ウ)の長崎のメッセージには3つ目として「核兵器を廃絶しよう」を加える。</p> <p>13ページ下の枠内の1「平和思想の後退」を1「戦争違法化思想の後退」に改める。さらに、「ハーグ平和条約、パリ不戦条約により平和思想が定着しつつあった直後の、日本による後退の流れ」を「ハーグ平和条約、パリ不戦条約により戦争違法化思想が定着しつつあった直後の、日本の侵略戦争による後退の流れ」に改める。</p> <p>13ページ下の枠内の2「戦略爆撃の展開」を2「都市無差別爆撃の展開」に「一般市民に対する戦略爆撃の歴史」を「一般市民に対する都市無差別爆撃の歴史」に改める。</p>	C	<p>「核兵器の廃絶」については、館の設置目的として掲げている内容であり、全ての展示に共通するものであると考えています。</p> <p>第3章 長崎原爆資料館運営審議会 小委員会での検討内容 2 - (2) 「平和思想の後退」、「戦略爆撃の展開」に関する表現については、小委員会での委員の発言の趣旨を踏まえて「小委員会各論点のまとめ」として、議論の結果を記載しているものであり、修正は行いませんが、今後の設計段階でより詳細な議論を行い、内容とあわせて検討してまいります。</p>
29	第3章 検討内容		<p>14ページの(3)の(目的)の「・誰もが今も核兵器のある世界に生きる当事者であると感じてもらう。」を「・誰もが核兵器を廃絶しなければ人類が生き残れない世界に生きる当事者であると感じてもらう。」に改める。</p>	D	<p>第3章 長崎原爆資料館運営審議会 小委員会での検討内容 - 2 - (3) - (目的) 中「今も核兵器のある世界に生きる当事者」についての表現は、今もなお核兵器が存在する世界の現状を客観的に表現したものであり、現状を肯定するものではありませんので、原案どおりとします。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への反映等	長崎市の考え方
30	第3章 検討内容		<p>①小委員会の検討内容に以下あります。(展示更新の方向性) (4) 戦争には被害と加害の両方の側面があるため、一面からではなく、多角的な視点から考えることができるよう、客観的事実に基づいた展示とする。これは、日本についての被害と加害、また原爆を投下した米国の被害と加害、両面が必要だと考えますが、そのような内容になっていますでしょうか? 「原爆投下に至った背景を理解するうえで必要な4つの視点」を拝見すると、日本についての視点しかないように思います。米国も被害は受けているものの、東京大空襲や原爆投下など、罪もない多数の一般市民を大量殺害した加害についても触れて頂かないと、両方の立場が分からないと思います。そもそも「平和」とは、相手を理解することから始まると考えます。その点でも、日本と米国、被害と加害、両面での考察、展示が必要と私は考えます。</p> <p>②「平和」とはなんですか? 核兵器のない「平和」、核がなくなりさえすれば、平和になるのでしょうか? 平和な状態って、いったいどんな状態なのでしょうか。来館者に、平和について考え、行動してもらい、がゴールの1つだと思いますが、原爆の悲惨さを訴えれば、それが実現するのでしょうか? (もちろんそれも必要と考えますが) 私の勤務する会社は製造業です。本当に残念ですが、10年に1度、死亡事故が起きています。死亡事故をなくそう、とする場合、死亡事故の悲惨さを伝えれば、それが実現するのでしょうか? 事故を無くそう無くそうと言っていれば、事故は無くなるのでしょうか? そうではないと思います。起こってしまった原因を探求し、再発防止策を取らねばなりません。では、核をなくす、平和な世界にするためには、何が必要なのでしょうか? そこに対する被爆地長崎としての、被爆国日本としての、何かしらのメッセージがあるべきと考えます。すいません、それが具体的に何なのかは、私も言えないのですが、何かしらそこに訴求できる展示・メッセージがあると良いのではないかと思います。</p>	C	<p>長崎原爆資料館展示更新基本計画(素案)に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー(3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。</p>
31	第3章 検討内容		<p>小委員会での検討内容で、世界的な視点から日本を位置付けており、客観的事実に基づく展示を目指しているように思われた。私達若者世代が、これから日本社会を担っていくにあたり、自分の国の歴史を正しく知るために、客観的事実に基づく展示がされるのは必要不可欠だと考えるため、市の素案の方向で、進めてもらいたい。</p>	B	<p>ご意見のとおり、計画記載の内容にそって検討を進めてまいります。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への反映等	長崎市の考え方
32	第4章 基本方針		展示は、原爆の破壊のすさまじさ、人間に与えた影響、殺傷力の強大、そして、放射線による影響を中心としています。この基本・コンセプトは変える必要はありません。	B	ご意見のとおり、核兵器の脅威と非人道性、戦争の悲惨さ、平和の大切さを世界に訴える責務がある、という長崎原爆資料館の基本理念は変えず、時代の変化に応じた展示内容を検討してまいります。
33	第5章 展示構成案		展示構成案Cコーナー名・「日中戦争と太平洋戦争」を残す。	D	第5章 展示構成案に記載している、展示更新の対象としている項目名は、注意書きのとおり、検討段階における内容を表したもので、展示更新後の展示コーナーの名称ではありません。
34	第5章 展示構成案		展示構成案の中で「なぜ核兵器は廃絶できないのか」とあり、展示更新の方針として「核兵器廃絶へどのような道筋があるのか」、「展示全体を通じて共通する内容」の方針として「来館者に問いかけ、考えさせる展示」とあります。以上の点に関して、我が国が唯一の被爆国でありながら米国の核の傘に依存していること、すなわち私たち日本国民自身が核抑止で平和を保っていることをしっかり示し、認識してもらうこと。そのうえで核兵器廃絶を求めるならば、私たち自身が核の傘に頼らずどのような方法で国の安全を保つのかを考えてもらえるように訴える展示が必要だと思います。我が国が核兵器禁止条約を批准するためには、核の傘から脱却することが絶対条件です。その意味でも核の傘について自分のこととして考えてもらう展示が必要だと思います。	C	展示の詳細な内容については、今後の設計段階において、引き続き運営審議会・小委員会を中心に、慎重かつ丁寧な議論を重ねていきたいと考えています。いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。
35	第6章 展示更新の方針	(1) 導入 展示	私は、両親が長崎被爆の被爆二世です。基本計画（素案）の中の「第6章 展示更新の方針」に対する意見を提出します。ぜひ反映させていただきたい。 導入展示：被爆前戦争に協力していた「軍都長崎」について展示する。	C	第6章 展示更新の方針1-(1)-イ-(イ)として、スロープや円形パビリオンを活用した導入展示を検討することとしており、ご意見の内容も参考に検討してまいります。
36	第6章 展示更新の方針	(1) 導入 展示	円形スロープ及びそれにつながる広場を「被爆前の長崎、浦上」のコーナーにする。この場合、円形スロープには被爆前の長崎の写真（それぞれにタイトルと説明）を日本語、英語、中国語、韓国語で表記する。スロープは幅が狭いので立ち止まっても他の人が通れるよう展示数は考慮する。広場には多数が屯する可能性のあるAコーナー写真を移設する（一部はスロープにも）。	C	第6章 展示更新の方針1-(1)-イ-(イ)として、スロープや円形パビリオンを活用した導入展示を検討することとしており、ご意見の内容も参考に検討してまいります。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への反映等	長崎市の考え方
37	第6章 展示更新 の方針	(1) 導入 展示	<p>職業上の事もあり、原爆資料館には1年に20回以上訪問します。訪ねるたびに感ずることはこの資料館は何を語っているのかと言う事です。演出も主張もなく平板に展示しているだけです。基本理念の中には「原爆被爆都市の使命として核兵器の脅威と非人道性、戦争の悲惨さ、平和の大切さを世界に訴える義務がある」と書かれていますが、本気でそれを果たしているか疑問を抱かざるを得ません。内部のスロープとそして床の何もない空間は、原爆投下後の全てが抹消された様相を思い起こさせます。しかし、最近はその床に展示物が置かれていることもあります。大事な空間、そして動線が台無しです。このスロープを祈りの道と称した人もいました。演出が全くないとも言えます。丸木位里・俊の原爆の図「ながさき」は暗い明かりの中で、見学者にも無視されたまま、放置されています。この絵は正に大量無差別爆撃の象徴とも言うべき原爆の凶悪さを告発しています。資料館の基本理念の「核兵器の脅威、非人道性、戦争の悲惨さ」を表すのもです。人道への罪であり、戦争犯罪を告発しているのです。一つの明りがあれば、人々の関心を引くでしょう。何故放置したままなのでしょう。資料館の本気を疑います。</p> <p>改装前には印象に最も残ったものとして壊れた時計が挙げられていました。時計の針の音を聞きながら、進んで行くと闇の中に浮かぶ11時2分で止まった時計。現在の時計の展示は全くの演出なしです。何故このような改装をしたのでしょうか。一瞬の暗がりを通ると、原子野。破壊の後の静寂、何故か音が聞こえていました。被爆者の呻きか、原子野を吹く風の音でしょうか。今は何の音も聞こえません。被爆者の呻き、嘆き、悲しみが響かない資料館とは？ これは演出の問題であり、主張の欠如によるものだと思っています。</p>	C	<p>第6章 展示更新の方針1-(8)-イ-(ア)に記載のとおり、来館者に理解を深めてもらうため、各コーナーのねらいを明確にし、来館者に問いかけ、考えさせる展示を目指して検討してまいります。</p> <p>導入展示、展示の演出に関するご意見を含め、今後の検討の参考とさせていただきます。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
			<p>被爆前の航空写真を見る前に、私は追悼平和祈念館に案内します。そこには被爆前と被爆後の写真が展示されている。見る人に衝撃を与える写真です。原爆投下は戦争犯罪であるという主張が明確に示されるべきだと思います。</p> <p>オーストラリアの被爆者たちは「原爆によって地獄から解放された」と述べています。捕虜虐待を告発する発言です。長崎で当時戦争犯罪が行われたと言っているのです。捕虜の虐待も原爆投下と同様に戦争犯罪であるとするとき、はじめて彼らと話し合う事ができるのでしょうか。南京大虐殺が話題になっていると聞いています。民間人の大量虐殺は当然のことながら戦争犯罪です。ウクライナ、ガザも戦争犯罪、人道への罪です。そのような視点に立てば、原爆の悲劇は現在の問題でもあり、若者を含む我々すべての課題なのです。</p>		
38	第6章 展示更新 の方針	(1) 導入 展示	<p>地下へ降りるスロープは、「心の準備」をしてもらう区画として、戦前・被爆前の長崎＝市民生活の日常、浦上地区の歴史、戦争へ向かう社会、戦時下の暮らしを、順を追って理解できる写真などの展示として活用できないか？今の入口のごちゃごちゃ展示では、駆け足になって心に届かない。</p>	B	<p>第6章 展示更新の方針1－(1)－イ(イ)として「被爆前の暮らしや街並みを、スロープや円形パビリオンを活用して展示し、象徴展示（柱時計）から以降は、被爆後の展示とし、時系列に沿った展示とする。」としており、ご意見の趣旨は素案の方向性と同じであると認識しています。展示の詳細な内容については、今後の設計段階において検討してまいります。</p>
39	第6章 展示更新 の方針	(1) 導入 展示	<p>被爆前の「日常」と被爆後の「実情」を人物写真で展示してほしい。・ほんの直前までの日常が一瞬で消滅してしまうことを示す。</p>	B	<p>第6章 展示更新の方針1－(1)－イ(ア)として「戦争や核兵器の問題を自分事として捉えてもらうため、二度と帰ってこない命や生活に光をあてる展示を充実させる。」としており、ご意見の趣旨は素案の方向性と同じであると認識しています。展示の詳細な内容については、今後の設計段階において検討してまいります。また、被爆の実相に関するAコーナー及びBコーナーについては、現在、被爆資料の整理と各資料にまつわる背景やエピソードの追加聞き取り調査を行っており、展示への反映には時間を要します。現在、学芸員を中心に調査・情報の整理を進めており、今回いただきましたご意見については、今後の検討の際に参考とさせていただきます。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への反映等	長崎市の考え方
40	第6章 展示更新 の方針	(1) 導入 展示	・P21 (1) ウ被爆前の暮らしや街並みに関する写真・映像等について 広島平和記念資料館で、壁一面が大きな写真になっているところは、迫力があって分りやすかった。参考にしてほしい。	C	展示の詳細な内容については、今後の設計段階において、引き続き運営審議会・小委員会を中心に、慎重かつ丁寧な議論を重ねていきたいと考えています。いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。
41	第6章 展示更新 の方針	(1) 導入 展示	2. (1) 導入展示について 21pの第6章 展示更新の方針 (1) 導入展示 であるが、Aコーナーの導入という考えかたをとりたい。(イ) 被爆前の暮らしや街並みを、円形スロープやパビリオンを活用して展示する ということとともに、「原爆投下」の導入として、Cコーナーの年表(「C-1日中戦争と太平洋戦争」)の一部だけでも移動したらどうか。原爆投下の背景として、アジア・太平洋戦争の展開があったということを理解してもらったらどうか、という趣旨である。 ウ 展示の主な内容 として「被爆前の暮らしや街並みに関する写真・映像等」を使うとされている。わかりやすく視覚的に理解してもらおうことであるが、可能であれば、地図も利用していただきたい。当時の地図だけでなく、戦後の作製された復元図の活用も含めて考えていただきたい。また、写真や映像(フィルム)などが戦前の場合、写真館や専門家以外になると、機器利用はかなり富裕層に限られることから、被写体になる人のくらしにはそうした重みがかわわっていく。極端に言えば、庶民のくらしは十分に写りこまない、ということもある。観覧者あてのキャプションなどではそうした点に言及しておいてほしいとも考える。	C	「Cコーナーの年表の移動」については、中長期的に大規模改修等を見据えた検討を進めるうえで参考とさせていただきます。また、導入展示に関するご意見については、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
42	第6章 展示更新 の方針	(2) 放射 線等	その他・熱線、爆風のコーナーに比べ、放射線のコーナーがひどく狭い。原爆が他の兵器と異なるのは、放射線の有無であり、しかも現在の危機に直結しており、その上、子どもたちの理解がむずかしい。故に拡充すべきである。	B	放射線の影響に関する展示については、ご意見の趣旨と素案の方向性は同じであると認識しています。展示の詳細な内容については、今後の設計段階において検討してまいります。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
43	第6章 展示更新 の方針	(2) 放射 線等	(2) 被爆医療や放射線等に関する展示： ①核の人権侵害の最たるものの一つが放射線の人体への影響であること、「核と人類は共存できない」ことを展示する。 ②広島・長崎の被爆者の方々のデータから「低線量であっても線量に応じたリスクがある」と推定される結果が示されていることを展示する。 ③内部被ばくの影響を展示する。 ④原爆放射線の遺伝的影響の可能性は否定できないことを展示する。	C	展示の詳細な内容については、今後の設計段階において、引き続き運営審議会・小委員会を中心に、慎重かつ丁寧な議論を重ねていきたいと考えています。いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。
44	第6章 展示更新 の方針	(2) 放射 線等	私を育ててくれた大叔母も祖父も被爆者です。母は生家が川一つ隔てて被爆者とはなりません。黒い雨訴訟にも触れていただきたいです。	D	長崎市が被告となっている被爆体験者訴訟との関連がある部分については、慎重に議論を重ねていきたいと考えていますが、ご意見いただきました内容は、今後中長期的検討を進めるうえで参考にさせていただきます。
45	第6章 展示更新 の方針	(2) 放射 線等	胎児被爆、被爆二世を含め、被爆医療の取り組みや成果についても示す。取り組み・成果だけでなく長崎以外では差別の対象になっている実例も、架空の人の体験談として、挙げていただければと思います。(身元調査で婚約破棄されたなど) (東日本大震災後、福島の方が移住先で差別に会われた時、同じことが起こっていると思いました。) また、被爆二世が医療を受けられるのは、広島県、長崎県以外ですと、東京都、大阪府といったような限られた大都市のみだったかと思います。(違ったらごめんなさい。) そのような実態も二世に送られてくるパンフレットなどを含めてご紹介ください。	A	被爆者が苦しんできた偏見・差別については、放射線の影響のみに限らず、被爆の実相に関するA・Bコーナーの中でどのように反映していくべきか検討していく必要があると考えています。いただいたご意見を踏まえ、第6章 展示更新の方針1—(2)—I—(I)として、「Bコーナー(被爆の実相)全体の見直しも見据えつつ、放射線の影響による社会的差別を展示する」を追加いたします。その他のご意見については、今後の検討の参考とさせていただきます。
46	第6章 展示更新 の方針	(2) 放射 線等	非人道性、特に放射線被害の紹介はもちろんですが、プレスコードなどの被害隠ぺいに起因して、被爆者が差別や偏見に苦しめられたことはもっと強調を。	A	被爆者が苦しんできた偏見・差別については、放射線の影響のみに限らず、被爆の実相に関するA・Bコーナーの中でどのように反映していくべきか検討していく必要があると考えています。いただいたご意見を踏まえ、第6章 展示更新の方針1—(2)—I—(I)として、「Bコーナー(被爆の実相)全体の見直しも見据えつつ、放射線の影響による社会的差別を展示する」を追加いたします。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への反映等	長崎市の考え方
47	第6章 展示更新 の方針	(2) 放射 線等	<p>【該当ページ・行数等】P21 (2) 被爆医療や放射線等に関する展示 ア 展示のねらい・放射線による被害が、いかに特殊であり、被爆者が長く苦しめられ、また、どのように向き合ってきたのか、【意見内容】「放射線による被害」には原爆の初期放射線による被害だけでなく、残留放射線による被曝も含むべきである。【該当ページ・行数等】P21 (2) 被爆医療や放射線等に関する展示 イ 展示更新の方針【意見内容】現在の展示されている「放射線による被害」は主として原爆の初期放射線による被害であり、Bコーナーの展示の範囲も爆心地を中心とした旧長崎市街に限定されている。広島平和記念資料館には「黒い雨が降ったとされる地域」の地図が展示されている。長崎でも原爆が投下された後、長崎の広い範囲に放射性降下物が降下した。住民は汚染された水を飲み、汚染された野菜を食べて内部被曝を受けた。広島では爆心地近傍を除いて残留放射線がほとんど検出されておらず、黒い雨の雨域は住民の証言をもとに作成されているのに対して、長崎には米国マンハッタン調査団や理化学研究所の残留放射線の測定資料等が残されている。「イ 展示更新の方針」の(ア)から(エ)には長崎原爆の放射性降下物による汚染範囲や残留放射線、特に内部被曝の人体影響に関するものが含まれておらず、これを(オ)として追加して欲しい。</p> <p>【該当ページ・行数等】P22 (2) 被爆医療や放射線等に関する展示 ウ 展示の主な内容【意見内容】以下の内容を追加して欲しい。・米国マンハッタン調査団による留放射線測定結果の広域地図(付録Bより)・長崎の原爆被爆調査-ネーヤ電位計によるγ線計測-(中根良平)・長崎原爆残留放射能プルトニウム調査報告書(岡島俊三)</p>	C	<p>展示の詳細な内容については、今後の設計段階において、引き続き運営審議会・小委員会を中心に、慎重かつ丁寧な議論を重ねていきたいと考えています。いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
48	第6章 展示更新 の方針	(2) 放射 線等	放射能障害と影響に関する最新知見の更新。2023年11月に行われた長崎県被爆者手帳友の会による米国三都市訪問では、原爆がもたらした放射能障害及び人体への影響について、交流したほとんどの市民は知らなかったと報告している。一生涯続く放射能障害、DNA変異に伴う次世代への影響、これらに伴う偏見・差別についても、最新の知見に伴う展示を求める。そのために専門の学芸員の配置も求める。	A	被爆者が苦しんできた偏見・差別については、放射線の影響のみに限らず、被爆の実相に関するA・Bコーナーの中でどのように反映していくべきか検討していく必要があると考えています。いただいたご意見を踏まえ、第6章 展示更新の方針1—(2)—イ—(エ)として、「Bコーナー（被爆の実相）全体の見直しも見据えつつ、放射線の影響による社会的差別を展示する」を追加いたします。
49	第6章 展示更新 の方針	(2) 放射 線等	「放射線等に関する展示」では、放射線の測定（米軍、理化学研究所）が爆心地、西山水源地だけでなく島原半島まで行われていたことを示し、長崎原爆の影響範囲を考えさせる展示にすることが必要です。	C	展示の詳細な内容については、今後の設計段階において、引き続き運営審議会・小委員会を中心に、慎重かつ丁寧な議論を重ねていきたいと考えています。いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。
50	第6章 展示更新 の方針	(2) 放射 線等	3. (2) 被爆医療や放射線等に関する展示 に関して 22 pにある イの方針やウの内容に特に不満があるわけではないが、このコーナーと関わって、被爆者に対する社会的な面での「差別」の諸相についても言及してほしい。「被爆者の生涯にわたって続く影響」が主な展示内容となっていることから、放射線による傷病の特徴や就職・結婚での差別、出産に伴う不安などにも言及があったほうがよいと考える。 やや関連するが「B-10被爆者の訴え」とも関連するので、そちらの改編（加除修正・入れかえ）の予定はないか。95年時から提案されてきたことだが、外国人被爆者コーナーを設けるべきではないかと思われるが、今回の展示改新で予定がないのであれば、積極的に被爆者の声、ということでも証言を多くいれておくべきだと考える。	A	被爆者に対する社会的差別について、放射線の影響のみに限らず、被爆の実相に関するA・Bコーナーの中でどのように反映していくべきか検討していく必要があると考えています。いただいたご意見を踏まえ、第6章 展示更新の方針1—(2)—イ—(エ)として、「Bコーナー（被爆の実相）全体の見直しも見据えつつ、放射線の影響による社会的差別を展示する」を追加いたします。 被爆者の訴えのコーナーについては、今回の展示更新対象範囲ではありませんが、被爆の実相に関するA・Bコーナーについて、中長期的検討を進めるうえで参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
51	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	<p>「原爆は自然現象のように落下したものではなく、人を殺傷するために投下されたものです」。ある被爆者の言葉です。なぜ原爆が落とされたのか。それは原爆が投下される前の歴史に目を向けることに他なりません。太平洋戦争だけでなく、日中戦争、韓国併合、太平洋諸国、東南アジアへの軍事行動など、原爆投下に至る歴史を語ることは、原爆の被害を語ることと切り離しては考えられないことです。過去を学ぶことは未来に同じあやまちを繰り返さないためでもあります。原爆資料館には多くの外国人も訪れています。原爆、戦争の被害とともに加害についても誠実に語り、日本の子どもたち、外国の人たちに対する力強い非戦のメッセージとなるはずで</p>	C	<p>長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
52	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	<p>本日配信のTV長崎の記事に大戦中に植民地化された東南アジアの方々の原爆観について書かれていたので私の体験を共有したいです。私はシンガポールで働いた後に大学院に通いました。勤務中は同僚や顧客から大戦についての言及は一切ありませんでしたが、仕事という種の利害関係のない大学院の先生／友人達(シンガポールだけでなく東南アジア各国出身者)からは何度も言及されました。侵略と殺戮等を、責めてきた人達、怒ったことと悲しみを理解して欲しい人達、様々でしたが、印象的だったのは、ある授業の私のプレゼンの中で戦争の悲惨さと日本人も受けた辛さ悲しみを示すために使用した原爆の資料を見た同級生達が、「他国を侵略して赤子まで串刺しにした日本人のくせに(要約)」と言ったことです。普段仲良くしていただけに、原爆の恐ろしい悲惨な映像画像を見てもそう思うのかと驚きました。犠牲者は一般市民だと説明しても「原爆のおかげで日本軍が撤退して良かった(要約)」と言われ、私の叔父達は全員戦死した、小学生だった母は出征していく人達に万歳というのが不思議だったと言う、と話しても、聞いて彼らの目に同情は無かったです。はっきり具体的提案ができず申し訳ないのですが、酷い火傷、一度に十万人、後遺症でさらに何十万人など、原爆特有の悲惨さを訴える他に、侵略され虐殺された方々に寄り添って、彼等が原爆被害者に寄り添える素地をつくって原爆とその廃止について知り考えていただくなど、原爆が酷いと訴えると同時に日本軍が与えた戦争被害を顧みて謝り共に憂い悲しむ展示が必要な気がします。彼らにとって日本／日本人は加害者です。被害者がまず聞きたい知りたいのは加害側が犯した罪への反省と謝罪であり、加害者側の辛い体験に目がいき寄り添い同情するのはその後なのだと感じました。</p>	C	<p>長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への反映等	長崎市の考え方
53	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	原爆が落とされたことによる被害の実相（今日の展示）はもちろんのこと、「言語に絶する悲哀を人類に与えた戦争（第二次世界大戦）の惨害」の最後の一つが長崎への原爆投下であったことを将来の人々に理解してもらうためにも、二二六事件以降からポツダム宣言の受諾まで、日本はなぜ戦争をしたのか、戦争は日本の社会をどのように変えたのか（国際社会においてどのように日本がみられたのか、治安維持法の制定等日本国内社会のあり方や国内社会において日本国民は思想の自由の侵害も含めてどのような状況におかれたのか等）、さらには日本は戦争によってどのような惨害の加害者となったのか、また長崎への原爆の投下を含めてどのような惨害の被害者となったのか、戦争前後で日本は何がどう変わったのか（日本の統治のあり方や個人の人権のあり方等大日本帝国憲法から現行の憲法は何がどう変わったのか）、長崎の戦争、原爆資料館に来れば、原爆の被害のみならず戦争によって生じた惨害が分かり、誰もが資料の展示を見終わった後には国際社会において二度と戦争の加害国にも被害国にもなってはならないと（長崎のようにはならないようにするためにはどうしたらよいのか）認識し得る平和資料館の展示をぜひ期待したいです。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
54	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	日本は戦争に負け、戦後の時代を生きてきました。そこで、それ迄の学校で学んだことは、天照大神が天井から杖で地の下をかきまぜその雫が日本列島となったと教えられました。そんな過去から本当のことを知る事の大事さを知りました。そこで原爆資料館の展示については、何故、原爆が落されたのか、何で日本は戦争をしたのか。戦争中の国民の生活、暮らしはどうだったのか。長崎は中国との交わりが深かったけれど、戦争で何で中国に攻撃したのか、等をこれからの国際社会で生きていく子ども達にわかる様な展示館であることが求められます。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
55	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	今回の原爆資料館の展示見直しにおいては、核廃絶と平和希求という長崎の願いを伝えることを基本としてほしい。国内外からの来館者にその願いへの共感・共有していただくことをめざしてほしい。そのためには、被爆の実相を伝えるとともに、日本がアジアで行った侵略行為（加害の歴史的事実）を明確に正しく展示することが重要である。1945年8月9日を被害の点のみでとらえることなく、日清戦争、日露戦争、日中戦争、太平洋戦争の歴史でとらえ、その後の戦後、現在、未来への流れを学べる資料館であってほしい。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
56	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	先の大東亜戦争はアメリカによる非人道的な核兵器の使用で集結したわけだが、国際法違反を犯したアメリカが称賛されるような内容は看過できません！そして日本に戦争責任があるかのような内容の展示もあってはなりません！ 日本はアジアの正義のために戦った事を後世に伝えるべきです！	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
57	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	絶対、現状維持の線は守るべきです。中国・韓国・東南アの国々にしんりやく戦争をして向こうの人々を何百万人もの人殺しをしました。こういう事実は動かしようはありません。一部の右翼よりの人々が、展示内容が、かたよっているとのことですが、私はそうは思いません。日本軍が、日中戦争、アジア太平洋戦争で、行ったことは強姦・虐殺・放火・略だつなど、ありとあらゆるむごいことをしてきました。ないと思うなら、中国やシンガポール・マレーシア等の国について調べたらいいと思います。今より、後退した内容をしたら、世界各国の人々から笑われると思います。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
58	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	私は素案にある「日本の加害の歴史について客観的事実に基づいた展示とする」という箇所を支持します。 終戦から80年が経過し、当時は公にされなかった事実が明らかになってきたことも事実です。現在の展示内容に誤りや誤解を生む内容が含まれるのであればそれは改めないといけません。 原爆の悲惨さを伝え、世界の恒久平和を祈る場であるはずの原爆資料館が、原爆投下を容認・正当化するような資料館であってはならないと考えます。過去の歴史・事実から目を背けてはいませんが、終戦80年が経った今、日本がいつまでも自虐史的な感情を持ち続けることに甚だ疑問を感じています。 原爆資料館が客観的事実に基づく展示内容とされ、真の意味で当初の目的を達成できる資料館となることを希望します。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
59	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	展示更新の方針について(3)・原爆の被害だけでなく日本の加害行為についても史実に即して客観的に展示し、多角的な視点から、特に現代史の全体像が分かるようにする。 展示更新の方針(ウ)・核兵器を使用してはならないのはいうまでもなく、一日でも早く核兵器を廃絶しなければならない。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
60	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	2. 戦争と核開発、そして実戦による人類史上初めて使用された歴史コーナーも変える必要はありません。日本がかつて朝鮮、中国、東南アジア諸国を侵略した加害の歴史は事実であり、南京大虐殺はじめとする侵した罪は消せません。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
61	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	<p>素案の原爆投下に至る歴史展示の説明の中で「世界史の中の日本の動きについて大きな潮流が見えてこない」と書かれていますが、私は、そうは思いません。日中戦争と太平洋戦争コーナーの年表とビデオを見ると日本が中国や東南アジアの国々を侵略したことによって中国や欧米諸国と関係が悪化し、戦争に突き進んだ経緯がよくわかります。また、「戦争には被害と加害の両方の側面があるため多角的な視点から考えられるような展示とする」とのことです。しかし、原爆資料館の約7～8割は、原爆被害の実態を伝える展示であり、日中戦争と太平洋戦争のコーナーは、ほんのわずかなスペースです。原爆資料館の役割が、被爆の実相をもとに核兵器廃絶を国の内外に発信することである以上、展示スペースの割合はこれでいいと思います。問題は、この限られたスペースで何に力点を置いて伝えるかです。原爆投下に至る歴史を展示するのでから日本の侵略と植民地支配によって中国、欧米諸国との対立が深まり、戦争に突入、その過程で原爆が投下されたことに重点を置くべきだと思います。原爆被害については多くのスペースを割いて展示しているのでからこのコーナーで被害と加害のバランスを気にする必要はないと思います。また、多角的な視点から考えられるような展示ということですが、細谷教授が提唱されたような視点をこの狭いスペースに全て盛り込むと焦点がぼけるのではないのでしょうか？日本の侵略や植民地支配を受けたアジアの国々の人々は、それらの国々で原爆展を開催しようとした長崎の市民団体に対して「原爆被害を訴える前に侵略や植民地支配で我々に被害を与えたことを謝罪し、加害の事実も展示しなければ開催を認めない」と強く反発しました。原爆資料館の来館者の約2～3割は外国人というデータがあります。これらの外国人の中には日本の加害行為によって被害を受けたアジアの国々や核保有国の中国、アメリカなどの人々も多いのですから加害の展示に力点をかけないと核兵</p>	C	<p>長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への反映等	長崎市の考え方
			<p>器廃絶のメッセージは届かないでしょう。展示更新の基本計画素案が作成されるようになった発端は、2019年保守的な議員が市議会で南京大虐殺はなかったなどとして南京大虐殺事件おこるといふ年表の修正を求め、それを受けて長崎市が見直しの検討を始めたことです。質問をした議員と気脈を通じる長崎の市民団体は、日中戦争と太平洋戦争は、自存自衛の戦争で大東亜共栄圏を作るためだったという歴史観を持っています。同じ歴史観を持つ故村上正邦氏ら政治家の圧力によって歴史教科書の記述が「侵略」から「進出」などと書き換えられてきました。この動き対してアジアの国々は、反発し、日本の歴史教科書に不信感を抱いています。長崎市は、展示更新にあたり、教科書に頼ることなく信頼できる歴史家らの意見を参考にし、アジアと世界の人々に核兵器廃絶の訴えが届くような展示にして頂きたいと思いません。</p>		

No.	項目 (大)	項目(中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
62	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	<p>日本の加害責任について、誰かが述べると「自虐史観」だと言う人たちがいます。そして、「戦争で亡くなった日本の兵隊の死を悼むべきであって、戦った相手の死は当然のこと」と見なしているようです。対戦相手の軍人には、ある程度当てはまるのかと思いますが、ガザの昨今の状況でもわかるように、一般市民の犠牲者がおびただしく出たことは明らかです。</p> <p>私は、戦地で亡くなった兵士を悼むとともに、戦いにまきこまれた、外国（特にアジア）の人たちの犠牲に目を向け、占領時に現地の人々を抑圧したことと合わせて、現実を認め、謝罪の意を表すべきだと考えます。その上ではじめて、アジア諸国の人たちと手を取り合って「反核・平和」に向かって進むことができるからです。</p> <p>この趣旨で、私は原爆資料館の「加害に関する説明文」を引き続き、掲示することを望みます。</p>	C	<p>長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方—（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。</p>
63	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	<p>原爆投下と加害責任は直接の因果関係は無いと思う。原爆投下は歴史の始まりであり、結果ではないと思うからである。原爆投下の目標地点の選定基準を軍事目標とする人々がいる。その資料が議会への報告書である。歴史を考える時資料批判が必要になってくる。その時議会はマンハッタン計画を中止しようとしていた。それを阻止する為に資料は提出されたのである。一次資料として信用度は低いのである。60年代だったか西日本新聞に目標地点の選定の理由が詳しく載せられている。長崎は木造建築の部分と工場群と二つに分かれ対象的だったからだという。この話はこれくらいで終るが、歴史は正しく学ばなければならない。</p> <p>加害の歴史も日本の国家が持っていた体質的な物にもある。人間を使い捨てのように扱う。現在にもつながっている事だ。格差社会もそうだ。国の関係も同じように考えていた。福沢諭吉の脱亜欧入の考え方、八紘一宇もそうだ。歴史から学ぶことは多い。未来への指針とし必要だ。</p>	C	<p>長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方—（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
64	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	<p>教えられてきた歴史は、日本人の精神を壊すためのものであったと、本当の歴史を学んでそう思っています。アメリカの原爆投下こそが、国際法に反する、日本人の大量虐殺です。戦争は、武器を持った兵隊が行うものです。原爆投下はどうでしょうか。</p> <p>アジアを旅行すれば、日本人には現地の人はとても優しく接してくれます。それは、大東亜戦争によって日本人がアジアの諸国を解放に導いたからです。今の私達に優しいのではなく、戦ってくれた日本人への感謝からです。日本人には教えられていない、本当の歴史を見せてください。日本人に尊厳を取り戻させてください。</p>	C	<p>長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。</p>
65	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	<p>当時の国際関係に巻き込まれた結果、日本国民の誰も望まない戦争で、世界で初めて核兵器によって、大量の市民が無差別に虐殺されたという、戦争の無為悲惨を伝える記録です。</p> <p>最近の研究や書籍によれば、日本は自国とアジアの解放のために命を投げ出した闘いでした。</p> <p>米国から、罪のない一般市民を巻き込む市街地が2つも破壊された被害より、核兵器を称賛するような表現は、遺憾でしかありません。それこそ、勝った米国を誇示する印象付けらような案には、反対です。</p>	C	<p>長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。</p>
66	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	<p>アメリカの原爆投下は国際法で禁止されている一般人を対象に行った虐殺です。これは事実です。また、日本はアジア諸国を植民地支配から救うために大東亜共栄圏を作ろうとしたのであって、日本が植民地支配したというのはデマであり、事実ではありません。そもそもそれまでアジア各国は大戦時はヨーロッパの植民地だったんですから。アジア各国は中韓を除き日本に感謝しています。</p>	C	<p>長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
67	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	<p>原爆資料館展示更新基本計画ということですが、ストーリー性を持たせ、日本が侵略したので原爆が投下されたと理解させたいような感じです。</p> <p>一般的な日本の歴史教育では上記のように教えてると思いますが、本当にそうでしょうか？ 単一的な見方で、本当の歴史資料として後世に価値あるものとなるでしょうか？</p> <p>さまざまな背景があり、日本は自国の自衛と亜細亜を解放し、共栄圏を形成して欧米列強と対等に渡り合うため、戦争に至ったと考えております。</p> <p>原爆資料館には、原爆投下がアメリカによる日本市民の「大虐殺」であること。歴史的事実を正確に伝えること。</p> <p>上記2点はぜひ一国民として要望したいと考えております。</p>	C	<p>長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。</p>
68	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	<p>原爆投下は明らかな国際法違反であるという意見があります。私もそう思います。原爆資料館ではそのことを伝えるべきだと思います。</p> <p>さらに言えば、太平洋戦争が自衛とアジアの植民地開放が目的の戦争であったこと等、今では明らかになっている事実や、日本側の視点をしっかり伝えるべきだと思います。</p>	C	<p>長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
69	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	<p>原爆投下に至った経緯にもっと焦点を当てることは良いと感じます。</p> <p>ただ全体的にはこれまで公教育でなされてきたように、あくまでも日本が悪であり投下の原因を引き起こしたとの見解を追認しているような印象を受けます。核兵器使用以前に戦争であっても民間への攻撃は重大な戦争犯罪であり(真珠湾攻撃は民間の犠牲もあったが基本軍事施設への攻撃)アメリカのやったことは如何なる理由があっても決して許されない事、日本が戦争に至る経緯も侵略ではなく、ハルノートはじめABCD包囲網に対抗し国家の存続の為に西洋列強に支配されていたアジア諸国を植民地から解放するという大東亜共栄圏の構想もあいまって日本には選択肢が無かった事等も掲載すべきであると考えます。多角的視点からというなら尚更、公教育では成されていないそういった視点からの展示は必要であると思います。ただ日本が悪かったというだけでは、ではひたすら憲法9条さえ守っていれば恒久的平和を維持できるという誤った認識を植え付ける事になりかねない。実際世界はそうなってはいません。当時日本の敗戦は確実であり、原爆投下は戦争を終わらせる為というよりソ連への牽制及び戦後の世界に対するアメリカの覇権の思惑もあり降伏を前に投下を急いだ、というのも歴史的事実として教えるべきと考えます。いずれにせよ分かれる意見に関してはどちらか一方ではなく、両者の見解を示す必要があると考えます。</p>	C	<p>長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— （3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。</p>
70	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	<p>原爆資料館には、戦時下とはいえ原爆投下はアメリカによる日本国民の大虐殺であること。</p> <p>そのための1次資料が存在するので歴史的事実を正確に伝えることが恒久平和の観点から必要と感じます。</p>	C	<p>長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— （3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
71	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	日米戦争開始の方向へ圧力をかけたルーズベルト大統領の判断、原爆投下による市民大量虐殺、国際法違反の東京裁判による「戦争犯罪」という捏造など、これからの我が国を担う子供たちが誤った歴史観によって自虐し誇りを失い希望や熱意を失わないように、長崎市は極めて重要な役割を担っていることを忘れず、「日本軍の蛮行をやめさせるための原爆投下」などというゆがんだ視点を決して流布されないように強く求めます。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
72	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	長崎に原子爆弾が投下され、罪もない、非戦闘員である国民が核の炎に灼かれました。私は、この人体実験とも形容すべき暴挙に強く抗議いたします。戦後、米国GHQやWGIPにより、日本人は自虐史観への洗脳が行われてきました。戦争で罪のない日本国民が米国のジェノサイドにより命を失ったことを全面的にアピールし、米国にその責任を追及する展示内容に変更されることを望みます。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
73	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	長崎に原子爆弾が投下され、罪もない、非戦闘員である国民が核の炎に灼かれました。私は、この人体実験とも形容すべき暴挙に強く抗議いたします。戦後、米国GHQやWGIPにより、日本人は自虐史観への洗脳が行われてきました。戦争で罪のない日本国民が米国のジェノサイドにより命を失ったことを全面的にアピールし、米国にその責任を追及する展示内容に変更されることを望みます。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
74	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	アメリカによる無差別殺戮犯罪であることをはっきりと明記し日本国 全国民は正しい歴史、事実を知らなければならない このような大量殺戮犯罪を受けた国が他に有りますか？ 全世界に正しい歴史事実が伝わるようお願い致します	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
75	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	<p>1995年に韓国で原爆展を実施しようとした時に、韓国の人たちから「日本は原爆の被害ばかりを訴えて植民地支配という加害の事実をプラスマイナスゼロで帳消しにしようとしている」と反対され、危うく開催されないという出来事に直面しました。その後韓国の被爆者の方々の尽力もあり、開催することができたのですが、感想文などには、「原爆の被害を初めて知った」他に「日本は戦争を反省すべきだ」という意見も書かれてありました。2年後の1997年にマレーシアで原爆展をすることになりましたが、この時も長崎・広島市長からのメッセージに謝罪の言葉がないということで、前日まで開催が決まりませんでした。マレーシアでは日本軍が侵攻した時に多くの住民が殺害され、今でも各地に多くの追悼碑があります。日本からの謝罪もなしに日本側の原爆被害だけを訴えてもマレーシアの人々の心に届かないということを改めて突き付けられました。また日本軍が占領したシンガポールの1970年代の歴史教科書には、キノコ雲の下でシンガポールの人々が原爆投下によって占領の地獄から解放されたと歓声を上げる絵が表紙に使われていたという話を聞いたこともあります。特に長崎は中国などアジアとのつながりが深くまた長く親交が続いており、大勢のアジアからの留学生や観光客が訪れています。アジアの若い人たちも過去の歴史を学んでおり、「原爆が落とされて当然だ」と考えてほしくありません。原爆被害を訴える前に、まずは過去の反省や謝罪が必要だと考えます。現在の展示の歴史年表にある「1937年12月南京占領、大虐殺事件おこる」は変えないでいただきたい。南京虐殺は歴史の研究者の間では学術的に史実として確定しており、教科書にも記載されています。</p>	C	<p>長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
			<p>日本の保守的な人々の中にはまだ「南京虐殺はなかった」という人がいますが、長崎市としてはそれに与しないいただきたいです。もし今回の展示更新で「1937年南京占領，大虐殺事件おこる」を削除したら，このニュースはSNSなどですぐに全世界へと流されるでしょう。長崎は，日本は「南京虐殺を認めないのか。日本はまた過去のように戦争の道を行くのか」と警戒心が強まるだけではないでしょうか。</p> <p>原爆資料館の基本理念（1992年）には「長崎市は・・・核兵器の脅威と非人道性，戦争の悲惨さ，平和の大切さを世界に訴える責務がある」とあります。世界に訴えるために，特に日本が被害を与えたアジアの人々に訴えるために，過去の加害の歴史を直視する態度や，反省・謝罪するような気持を表わしていただくよう強く要望します。</p>		

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
76	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	<p>原爆を自然災害のごとく展示することはまちがひ。日本のアジア侵略、戦争によって原爆を招来させたというのが実相である。731部隊の犯罪、南京事件などなかったのときを主張する人々は、内外の研究によって明らかになった事実を認めないのだから、毅然として受け入れてはならない。</p> <p>天皇制イデオロギーに基づいたアジアの人々への加害は、原爆を招き寄せたこととつながっている。原爆反対だと唱えれば教育勅語の文章も役立つと強弁する松井市長（広島）のような意見も許されるとは考えてはならない。憂うべき「平和市長」である。広島のことだと云ってはならない。核兵器反対を口に出せばよいという問題ではない。</p>	C	<p>長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
77	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	<p>原爆投下に至った背景を理解するうえで必要な4つの視点1「平和思想の後退」ハーグ平和会議、パリ不戦条約により平和思想が定着しつつあった直後の、日本による後退の流れ2「戦略爆撃の展開」日本による錦州空爆に続き、ゲルニカ、東京大空襲など、一般市民に対する戦略爆撃の歴史3「核開発の歴史をより大きな大量破壊兵器の開発の歴史の中に位置づけること」より大規模な殺戮を可能とする大量破壊兵器の開発の歴史の中で、核分裂物質の発見と核分裂のエネルギーの解放によって核兵器がどのように開発されていったのかについての検証4「核兵器使用の決定」原爆投下論争についての理解上記の内容は、資料から抜粋したものです。この点についての展示をご一考ください。</p> <p>1.当時、世界は植民地が多数存在しており、平和会議と言いますが、支配側の提唱であります。日本は植民地化されていませんでしたが、近隣諸国は植民地化されており、いずれ日本もそうなるとの危機感から、戦争の選択肢を苦渋の決断で選んだと理解しています。また、パリ講和会議で人種差別撤廃を提唱し、採択され（その後議長権限で否決）支配側（欧米列強）からの圧力が強まった背景があります。2.錦州爆撃は満州事変の一環であり、事変の延長上の作戦で、被害も少なかったと認識しています。それに比べ、ゲルニカ空爆、東京大空襲、原爆投下などは完全に民間人を標的にしており、殺害した数も桁外れです。米軍による民間人の大虐殺と展示した方が、核軍縮にもつながると思います。3.核開発の歴史はけっこうですが、人類と言うものは一度手にした技術は手放さないです。核、枯葉剤、遺伝子操作、兵隊への麻薬投与、クラスター爆弾など、歴史上無くなったものはありません。大事なことは、こういった事実を伝えてどう抑止するかを考えることで、それには正しい情報が不可欠となります。</p>	C	<p>長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案へ の反映等	長崎市の考え方
			<p>4.米国は、民意に押され戦争を継続できませんでしたが、米軍の死傷者も膨大だったからです。沖縄戦であれだけ苦戦し、本土占領は当然不可能です、日本軍も本土防衛には十分な戦力がいましたし。米国の公文書では戦争の早期解決と、共産国への威嚇、核の人体実験となっております。ぜひ公文書を確認下さい、米国自身が発表したものなので問題にはならないはずです。特にお願いしたいのは、大東亜戦争によって亜細亜は解放された事実と、原爆投下は米軍の戦争犯罪であることです。日本軍も悪かった事が多々あったのは承知していますが、戦争とはこういう事です、完全な善悪にはなりません。大きな流れで展示のリニューアルを考えてもらえればと要望します。また、全国的な観光地であり学生の社会見学の場となっている当施設に、小さな事実を元に、日本が悪かったんだと誘導するような展示にはしないでください、長崎市民として恥です。</p>		

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への反映等	長崎市の考え方
78	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	日本はアジアの解放のために戦った。有色人種にとっての最後の砦だった。日本の言うべきことはしっかり言う。おかしいことは可笑しいとしっかり言う。それでこそバランスが取れて世界平和が成り立つ。日本悪玉史観は絶対にやめるべきだ。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
79	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	戦勝国によって塗り替えられた歴史ではなく、なぜこんなにも多くの日本人が虐殺されなければいけなかったのか、しっかりとした歴史感から後世の世代が学び、今後の日本の危機から自衛できるように、日本のために展示を残していただきたい。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
80	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	大東亜戦争開戦において日本だけが悪いという一方的な考え方での展示はやめて頂きたい。戦後検証がされる中、早い時期から米国の戦争責任を問う結果も沢山出ているはず。米国人研究者でも「日本は自衛のために戦ったのであり開戦の責任は米国にある。」と言っている。 どちらにせよ…長崎、広島への原爆投下は一般市民の大量虐殺であり許し難い戦争犯罪であるはず。 日本は…特に長崎や広島国民は誇りを持って自虐的な東京裁判史観から脱却して頂きたい。 日本の子供たちの未来が輝かしく誇りあるものになるための展示にして頂きたい。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
81	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	<p>(3) 原爆投下に至る歴史に関する展示：原爆投下に至る明治以降の日本のアジア侵略（植民地化）や侵略戦争について全体像を基本展示として展示する。原爆がなぜ投下されたか、明治以降の日本のアジア侵略や侵略戦争、日中戦争と太平洋戦争の結果であり、植民地支配や侵略への「深い反省」がなければ侵略されたアジア諸国の人たちには原爆被害だけを訴えても核廃絶をめざす長崎からの訴えは伝わらない。また、日本の若い人たちが学校教育の中で日本の近現代史を十分には学んでおらず多くが過去の戦争で日本は被害者だったという認識である。資料館を訪れる若い人たちに日本の近現代史、加害の歴史を知ってもらうことが再び日本を誤った道へ歩ませないために重要である。核廃絶のために日本の若い世代と国際社会との連帯につながる展示が必要である。そして、「南京占領、大虐殺事件おこる」との標記の見直しが検討されてきたが、南京占領時に「大虐殺事件」が起こされていたことは学術的に確認済みの歴史的事実であり、見直しの必要はない。見直しは被爆地長崎の国際的信用失墜になる。</p>	C	<p>長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
82	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	<p>① 展示の背景としての理解についての意見 日本が侵略したので原爆が投下された、という理解の上で展示が行われるのかと読み取れました。一般的な日本の歴史教育では、そのように教えてと思いますし、間違いとは言えません。しかし、実際には、さまざまな背景があり、米国としては台頭してきた日本を追い込み、日本は自国の自衛と亜細亜を解放し、共栄圏を形成して欧米列強と対等に渡り合うため、戦争に至ったという考え方もあろうかと存じます。その点、両論併記でも良いのでご配慮お願いいたします。</p> <p>② そのうえで、(1)原爆資料館には、原爆投下がアメリカによる日本市民の大虐殺であること。(2)戦後その大虐殺の事実を隠すため、東京裁判や教育内容に関与してきたこと。(3) 歴史的事実を正確に伝えること。判断は、両論併記でお願いします。特に自虐史観に基づいての一方的な意見のみの陳述は避けて頂きますようお願いいたします。</p> <p>③ 日本の次世代を担う若者たちに、既に周知の事実となりました、ウォー・ギルト・インフォメーション・プログラム(WGIP)にて歪められた考え方を引き継いで欲しくありません、との考えより、意見申しました。 https://ja.wikipedia.org/wiki/</p>	C	<p>長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
83	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	長崎市が原爆資料館を運営しているのは、被爆の実相を伝え核兵器廃絶を実現するためです。核兵器廃絶を実現するためには日本国民だけではなく世界の国々の人々に共感してもらう必要があります。このことを前提に展示内容を考えるべきです。参考になるのは被爆者の先人が海外で核兵器廃絶を訴えて、どのような反応があったかということです。アメリカではパールハーバーの騙し討ちによって日本が戦争を始めたから原爆が使われたと、核廃絶を訴えた被爆者たちは言われてきました。またアジアの国々では日本軍によってどんなひどい目にあわされたのか、原爆は自分たちにとって解放だったと言われました。このような海外の人々の視線を前提にすると、日本が戦争を騙し討ちで始めたことを明示すること、アジアの人々に日本軍が残虐なことを行ったことを展示することは欠かせません。これらのことをしっかり展示した上で、それでも非人道的な兵器の原爆を使うことは非難されるべきだし、今後も世界のどの国の人々にも核兵器を使わせてはいけないことを訴えるしかありません。けして原爆が投下された歴史的経緯を説明するだけでよいというような展示では、海外の人々を納得させられません。学者の意見を聞くとともに、上記のような体験をしてきた被爆者・平和団体の意見を取り入れる努力が尽くすべきです。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
84	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	原爆資料館を以前見学した経験から。「加害展示」は現状のまま展示を継続することが適切と考えます。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
85	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	市民から日本の戦争加害記述についてが発端となって展示内容の変更を行うべきかを検討し始めたとお聞きました。もしそうであれば、戦争の全体像をきちんと示さないということになり、結局は長崎被害の実像をも歪める結果になりうる考え方だと思います。パレスチナ問題でその歴史的経緯全体をとらえなければ理解できないのと同じです。展示更新にあたっては、是非この視点を忘れずに検討をお願いします。ことは長崎市民だけの問題ではなく、日本の歴史を後世にきちんと継承していくために重要です。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
86	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	素案p22 (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に関わってイ展示更新の方針の(イ)のdに、「戦争には被害と課外の両面の側面がある」とあるが、過去の長崎平和宣言でも、たとえば1995年に伊藤一長市長が「アジア太平洋諸国への侵略と加害の歴史を直視し、厳しい反省をしななければなりません。私たちの反省と謝罪がなければ核兵器廃絶の訴えも世界の人々には届かないでしょう」と強調されているように、客観的な事実に基づく展示とすることや多角的な視点から考えることはもちろん大事だが、それと同様に、過去の日本の侵略戦争と植民地支配に対する反省を土台とすることを展示更新の方針としてきちんと据えるべきである。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
87	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	旧日本軍によるホロコースト、性的加害を記録した書物の海外のレビューに、『原爆2 発では足りなかった』というものが、心に残りました。広島、長崎に落とされた原爆はアメリカ軍による人体実験であったと、私は考えています。しかし、それだけでは世界の人々には響かないでしょう。朝鮮併合まで遡ってアジア諸国をはじめ加害の歴史をしっかりと展示したうえで、原爆の非人道的被害を明確にできるのではないかと考えます。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
88	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	<p>展示見直しにおいて、もっとも重要なことは館の設置目的や基本理念に沿った展示を行うことです。そのためには、二度と戦争をしない、核兵器を廃絶するという意思が伝わる展示にすべきです。過去の侵略戦争の反省の上に立ち、未来の子供たちに伝えていくことが重要です。中村桂子委員が第4回小委員会で「過去を正面から見据えることでしか、未来志向にはつながらない」「歴史をきちんと見つめることが未来につながるのだという姿勢を、言葉でも展示の方向性でもしっかり明記すること」という意見こそ資料館の展示の基本にすべきだと思います。12月の審議委員会で「中国が先に戦争を始めた」という学術的に確定した歴史の事実を捻じ曲げる発言者こそ問題です。日本が侵略戦争を起こし、その結果として「原爆が日本に投下された」という事実を伝えないと、世界の人々に納得してもらえないし、原爆の悲惨さもきちんと伝わらないということです。「核兵器禁止条約」ができて、核兵器廃絶に向かおうとしていく世界に、長崎は共に進んでいくという姿勢を展示することが必要です。先月、原爆資料館を見学した際、海外から特にアジア系の方が多く訪問していました。その世界の方々に核の悲惨さを平和の大切さを訴えることができる展示内容となることを切に望みます。</p>	C	<p>長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。</p>
89	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	<p>今回の展示文改訂は日本の加害行為の記述を削除する方向で検討されていると聞きます。不名誉な記録を残したくない心情は理解できますが、それは歴史と外国に対する誠実さを欠いていると言わざるを得ません。日本の原爆被害は全く悲惨ですが、植民地支配を受けていたアジア諸国には原爆投下を「神の救い」と捉えている国があり、背景には日本による圧政や残虐行為があります。平和を築く上で相互理解が必要であることは明白ですが、他国に苦しみを与えたことに目をつむり、自国の被害のみを強調しては、原爆被害の悲惨さを訴えても、平和に向けた協力関係を築くような理解は決して得られず、かえって独善的との非難を免れません。それは本当の意味での国益を損ねるものであり、加害行為記載の削除に強く反対します。</p>	C	<p>長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
90	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	よく検討され全体的にストーリー性や原爆投下に至る歴史的経緯の重視がなされ期待されます。これまで、原爆投下と関係がない一方的な日本加害を強調する展示も気になっていましたが、根本は、核兵器の根絶であり、やはり、投下した国を擁護するような展示は避けてほしいと思います。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
91	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	長崎の原爆資料館は修学旅行生も多く訪れ、平和を考える大変貴重な施設であり、何よりも核兵器廃絶を世界の人々に訴える施設です。被爆者が高齢化し、被爆の実相の伝達が年々困難になる中ますますその役割は大きくなっています。今回の基本計画の中で太平洋戦争の日本の加害の歴史がきちんと伝わる展示になることを願望します。加害の歴史への反省なくして、真の平和な未来は築けません。加害の歴史を不当に隠蔽しようとする試みからはアジアの人と手を携えて平和を構築できないことを真剣に考える展示内容になることをぜひご検討ください。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
92	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	原爆投下はいかなる理由・状況においても許されるものではない、アメリカによる、日本一般国民の大量虐殺行為だということが大前提にあるべきだと思います。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
93	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	展示基本計画案については、歴史事実に基づいた展示がなされるよう、見識ある計画のもとすすめられるよう要望します。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への反映等	長崎市の考え方
94	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	原爆投下を正当化しかねない展示は辞めてほしいと願ってましたので、今回よかったです。復興長崎、誇りを感じられると尚よいと思います。核兵器廃絶願ってます。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
95	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	南京大虐殺については、数字等の検証からそれが事実ではないことが証明されているのに、今もそれが事実であるかのように展示が継続されていてびっくりしました。長崎市民として恥ずかしい思いです。誤った情報を公の場に提示し続けることは、自治体（長崎市）への信頼を損ねることになると思います。長崎市は被爆都市であり、その役割は大きいです。長崎市の子供たちが真の平和教育を学べるようにきちんとした事実のみを展示して下さるよう強く望みます。間違った自虐史観では故郷を愛する教育は出来ません。あの焼け野原から、新三大夜景と言われる長崎にまで復興させてくださった名前すら残っていない先人への感謝や、被爆直後から活躍された永井博士をはじめとする救世主とも思われる方々の偉業を展示していただきたいと思います。人口流出で有名な長崎ではなく、誇れる故郷長崎に。平和の象徴として、子供たちが誇れる町の原爆資料館になるように期待します。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
96	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	素案に示された展示更新の方針に賛成します。これまでの展示には、原爆を落とされたのは日本にも原因があると感じさせられるものがあり、違和感を持っていました。長崎のメッセージである「いかなる理由があっても原爆投下は正当化できない」ことを伝える展示になっていくことを願います。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
97	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	多角的な視点から、客観的事実に基づく展示を目指しているようで、とても良いと思いました。私は数年前に長崎に越してきましたが、修学旅行などで資料館を訪れると直接被爆とは関係のない内容もあり、どこを大事な視点として捉えていいのかわからない一面もありました。原爆資料館を見学した際に生徒から「日本が悪いから」という意見があり、その印象だけで思考停止し、「いかなる理由があっても原爆投下は正当化できない」という長崎市民として平和への考えを深めることは難しいと感じました。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
98	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	小委員会での検討内容は、世界史の中で日本を位置付けて、多角的な視点から、客観的事実に基づく展示を目指しているようで、期待が持てます。素案の方向で展示の更新を進めてもらいたいと思います。多角的視点というのは、単なる被害、加害、という側面に収まるものではないと考えています。広い視点から展示が作られることを期待します。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
99	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	素案に示された展示更新の方針に賛成します。これまでの展示には、原爆を落とされたのは日本にも原因があると感じさせられるものがあり、違和感を持っていました。素案にあったように、復興までの道のり、医学の成果等、現代の希望を示すことこそが、目指す資料館の姿につながるのではないかと思います。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
100	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	<p>小委員会での検討内容は、世界史の中で日本を位置付けて、多角的な視点から、客観的事実に基づく展示を目指しているようで期待が持てます。素案の方向で展示の更新を進めてもらいたいと思います。ただ、お願いがあります。展示更新の方針の中で、(3) 原爆投下に至る歴史に関する展示イ(イ) dに、戦争には被害と加害の両方の側面「及び勝者と敗者の相対する側面」があるため、……と「」の部分をつけ加えていただくことを願います。戦争についてはほぼ勝者の視点から歴史が作られます。先の大戦についてもその傾向が強くなるのではないのでしょうか。日本でいえば東京裁判史観です。以上のことを更新の視点に付け加えてくださるようお願いいたします。</p>	C	<p>長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー(3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
101	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	<p>「いかなる理由があっても原爆投下は正当化できない」「核兵器は絶対使用してはならない」という長崎市のメッセージにつながる展示とする、という事が明記されており大変よかったです。現在の資料館の歴史展示は、日本が侵略戦争をしたから原爆を投下されたとも受け取れる展示になっています。これは理由があるなら核爆弾使用はありうることを暗に主張していることにほかなりません。現在、ウクライナでは戦争が続けられており、戦争当事国双方は対戦国こそが平和を踏みにじていると主張しています。ロシアは明確に戦術核兵器の使用もありうると恫喝しました。パレスチナの戦争では、イスラエルは潜在的な核爆弾保有国ともいわれています。北朝鮮は核兵器の増強を続けています。台湾海峡で米中が衝突したら、核兵器の使用が絶対ないと言えるでしょうか。核兵器使用の可能性は高まっています。考えたくもないことですが、ここにあげた現在戦争を続けている国々やそのリスクがある国々で、万一核爆弾が使用されるとき、その理由は相手国こそが平和の敵だ、侵略者だと理由を主張するでしょう。これはまさしく現在の長崎原爆資料館の歴史展示が仄めかしている原爆投下の理由＝正当化につながるものです。この度の長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）では冒頭の長崎のメッセージがもられており、原爆容認論につながるもととられかねない現在の展示を是正していただくことができると期待します。さらに、わずか3日の間に二つの原子爆弾を投下し多くの非戦闘員の市民を一瞬のうちに殺戮した米国の戦争犯罪を明らかにする展示をしていただくよう切に願うものです。</p>	C	<p>長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。</p>
102	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	<p>原爆投下の経緯に関する展示の統一・充実 原爆投下に至る歴史や背景に関する展示は現在は分散されていて、初めて原爆に触れる人にはわかりにくいものとなっています。まずは1つのコーナーにまとめる必要があります。</p>	C	<p>長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
103	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	原爆資料館の設置目的は過去の大戦の多大な犠牲に対する反省の下、長崎のような被爆の惨禍が世界のどこにもこれ以上繰り返されないことを願うことに他なりません。 韓国や中国をはじめ、東南アジアや世界の各地から観光客が訪れる長崎。侵略・加害の歴史から始まった戦争の歴史の真実を歪めることなく後世に伝えなければ、単に原爆の恐ろしさだけを叫んでも共感は得られませんし、長崎からの平和への願いも人々の胸に響かないでしょう。誰もが納得のいく展示内容でなければ、かえって長崎の恥になると思います。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
104	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	C-1コーナーについては、一部の方の意見に左右されることなく学習の場にしてほしい、無くさないでほしい！原爆の被害と併せて、日本のアジア諸国に対する加害の歴史から戦争（両面/加害・被害）を学ぶ場としては、とても重要です。英語付記も必要かと。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
105	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	小委員会での検討内容は、世界史の中で日本を位置付けて、多角的な視点から、客観的事実に基づく展示を目指しているようで期待が持てます。素案の方向で展示の更新を進めてもらいたいと思います。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
106	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	原爆投下に至った背景を理解する上で日本の加害があつて原爆被害があつたみたいな単純な不正確な展示にならないように客観的事実に基づいた展示の更新をお願いしたいと思います。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への反映等	長崎市の考え方
107	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	両親や兄弟は被爆者です。関心をもって読ませていただきました。現在の原爆資料館の展示が悲惨だけを伝えていて危惧しています。今回の素案に示された展示更新の方針に賛成します。中でも原爆投下に至る歴史に関する展示について、展示更新の方向性については大筋でその通りだと思います。いい方向にいています。ぜひ素案を通していただきたいと思います。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
108	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	長崎原爆資料館は、様々な立場や国の人々が原爆について考える場所であり大切なところだと思います。それぞれの考えをもつ方々がお互いの意見や考えを知るためにも被害ばかりでなく加害など多様な考えを展示することは資料館として大切なことだと考えます。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
109	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	日本が加害の事実があるのなら事実を記載し、負の歴史として残すことは当然のこと。慰安婦問題も「なかったこと」にしようとしている。強制連行も、なかったことにしようとしている。「負の歴史を残すこと」に賛同します。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
110	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	資料館の役割は、中立的な立場で正しい歴史を伝えることにあると思います。その事実を正しく伝えることをやめることに危機感を持ちます。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
111	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	事実を事実として残すことが、歴史をふり返るのに真に必要なことだと思います。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
112	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	削除すべきでない。事実は事実として万人に知らしめるべき。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
113	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	p 1 3に「戦争には被害と加害の両方の側面があるため、一面からではなく、多角的な視点から考えることができるよう、客観的事実に基づいた展示とする。」とあります。まったくその通りだと思います。原爆で民間人が何万人も亡くなる被害を受けましたが、日本の加害で亡くなった人も世界に何万人もいることは事実です。日本人の原爆被害を知ってほしい、ということではなく、「原爆がどこの誰に使われてもいけないし、原爆に限らず、戦争はいけない。」「日本が加害の側になるようなことは2度とないようにしなければいけない。」のメッセージが伝わるように、日本の加害のこともしっかり展示するべきだと思います。そうすれば、日本から被害を受けた国の人が展示を見た時に、一緒に原爆や戦争をなくす立場になれると思います。スミソニアン博物館にアメリカの加害、つまり原爆被害のこゝろを入れることに抵抗を示した人がいたのと同じようにはいけないと思います。ガザで起きていることも、自分たちの被害のこゝろばかり頭にあって、加害については認めないことで悲惨さを極めていると思います。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
114	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	展示は、世界の常識を踏まえ、世の中の本質と歴史的事実に基づかなければならない。ロシアvsウクライナ？イスラエルvsハマス？日本の報道を鵜呑みにして、いつまでもお花畑な思考では、我が国は世界からバカにされ、亡国となる。戦争をしたい勢力が核を保有しているのであれば、常識的に自衛のため、抑止力として同等に備えるのが当たり前。自宅に鍵をかけ、防犯カメラを設置するのはなぜですか？それから、将来を担う日本の子供たちが健全に育つことを第一に考え、自虐史観を植え付けることは絶対に避けてもらいたい。近代史に焦点を当てると、日本はこれまで一度も植民地を持たず、パリ講和会議でも人種差別撤廃を提唱した事実がある。GHQはなぜ当時の日本の書物を焚書にしたのか。事実が述べられていたからである。彼らの背後にいた金権独裁勢力が膨大な軍需生産を発展させ、その消費の為、世界中で戦争を繰り広げてきたのは自明であり、現在進行形の戦争に繋がっている。長崎市はこれからも騙され続けるのですか？	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
115	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	テーマが原爆資料館です。説明内容変更注意して下さい。原爆は無差別殺人です。日本はアジア諸国の解放の為に闘いをしました。中国や韓国の主張に負けないようにして下さい。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
116	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	○原爆投下に至る歴史に関する展示には、なぜアメリカが日本に原爆を落とすことに決めたのか？なぜ、長崎、広島を標的としたのか、明確にする展示が不可欠だと思います。アメリカが効果を知りたいために、落とすのではないですか？ ○原爆資料として、良く日本が悪かったので、原爆を落とされたと一方的に日本が悪かったとの展示が多いです。アメリカのジェノサイドと明確にする必要があると思います。 ○素案に示された展示方針に賛成します。多角な視点から客観的な事実に基づいた展示をしてもらいたいと思います。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
117	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	素案の中にある、「多角的」「客観的」という点において賛成である。歴史の見直しもされている中で、従来の南京大虐殺のように、一方的にどちらが悪いということを断定するようだと、かえって誤解を招く恐れがある。また、あくまでも「原爆」に関することを展示するべきで、いかに原爆がおそろしいか、原爆の脅威、悲惨さを伝えるようにすべきである。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
118	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	長崎で原爆資料館の展示について、日本の「加害についての説明文」を削除する動きがあると伺い、驚き、また大きなショックを受けております。 どうぞ世界に向けて平和を発信できる長崎だからこそ、日本の加害責任を説明する部分を削除しないでください。 戦争には被害と加害の両方の側面があるため、一面からではなく、多角的な視点から考えることができるよう、客観的事実に基づいた展示とすることが大切であることは言うまでもありません。平和の大切さと戦争のむごさ悲惨さを身をもって体験した長崎だからこそ、これまで守り抜いてきた真実と平和を尊び、世界中の人々と共に平和を実現する姿勢を、どうぞ今後も貫いてください。世界の様々な地域で紛争が起きている今、自国他国を問わず、全ての人々の平和と安寧を求める長崎のその様な姿勢が、きっと世界に対しても平和への大きなアピールに繋がるはずで。 どうぞ日本の加害責任を説明する部分を決して削除せず、フェアな歴史事実にもとづいて展示がなされるよう、見識ある計画のもとに展示をおすすめるよう強く強く要望致します。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
119	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	今の展示内容は、原爆とは直接関係のないコーナーも多々見られる。平和教育として、修学旅行をはじめ、多くの児童・生徒がたずねると思うが、今のままでは「日本が悪かったから原爆を落とされた」という意見にもなりかねない。素案、理念はおおいに共感できるので、素案に基づいて計画を進めてほしい。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への反映等	長崎市の考え方
120	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	<p>長崎市の被爆者をはじめとする市民が世界に発信してきた「核兵器廃絶」と「世界恒久平和」のメッセージに敬意を表するひとりとして、今回の見直しのなかで、「加害」の歴史についての展示を縮小・改変することを懸念しています。「戦争には被害と加害の両方の側面があるため多角的な視点から考えられるような展示とする」とありますが、原爆資料館の展示の7～8割は原爆の「被害」の実態を伝えるものです。その「被害」を引き起こした戦争、歴史の実相を伝えるには、残りの限られたスペースで、日本の侵略と植民地支配によって中国や欧米諸国との対立が深まり、戦争に突入していった「加害」の歴史を伝える必要があります。</p> <p>「加害」に関する展示は、「過去の戦争を深く反省し、原爆被爆の悲惨さと、今なお続く被爆者の苦しみを忘れることなく、長崎を最後の被爆地にしなければなりません」という長崎市民平和憲章を具現化したものです。過去の加害に誠実に向き合う姿勢が、長崎が発する「核兵器廃絶」「世界恒久平和」のメッセージに説得力、普遍性を持たせ、核兵器禁止条約などにおいて国際社会を動かす力につながってきました。「加害」に関する展示の縮小・改変は、「世界恒久平和」を訴える長崎の国際的な信頼の基盤を崩しかねない危険なものです。</p> <p>日本の侵略や植民地支配を受けたアジアの国々の人々は、それらの国々で原爆展を開催しようとした長崎の市民団体に対して「原爆被害を訴える前に侵略や植民地支配で我々に被害を与えたことを謝罪し、加害の事実も展示しなければ開催を認めない」と反発しました。壮絶な経験をした被爆者が訴えている状況でさえ、日本の過去の「加害」に向き合うバランスが必要でした。被爆者が高齢化し、次世代がその体験を語り継いでいかなない時代を見据えたときには、よりいっそう、そのバランス感覚が求められます。</p>	C	<p>長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
			<p>「加害」に向き合うことは痛みを伴う作業で、その展示を縮小・改変すれば、一部の人にとっては心地よいかもしれません。しかし、その行為は次世代が長崎から国際的なメッセージを発していく基盤を弱めるもので、「未来志向」と相反するものです。</p> <p>とくに、原爆資料館の来館者の約2～3割は外国人というデータがあります。「原爆資料館」の役割が被爆の実相をもとに、核兵器廃絶を国内外に伝えていくことにあるので、「被害」「加害」の展示の割合は従来通りでいいとおもいますが、長崎の「核兵器廃絶」「世界恒久平和」のメッセージが幅広く国内外に届くことが大切です。「加害」の歴史についての展示を縮小・改変しないよう求めます。</p>		

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への反映等	長崎市の考え方
121	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	平和案内人をさせていただいています。その際に気がけていることや、要望も含めて意見を述べます。○戦争の実相を記述してほしい。・戦争に正義はない。双方が殺し合うことが実相であること。・原爆は、根本的な原因である戦争であったから投下されたこと。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
122	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	<p>原爆資料館の加害展示に断固反対です。よく調べもせず勝手に日本を加害側にしないでください。まず南京大虐殺に関してですが、当時人口約20万人の南京市でどうやって30万人も虐殺するのですか？しかもたった一日で。広島、長崎の原爆死者数合わせて約30万人です。捏造を広めるのではなく、下記の”事実”を展示してほしいです。↓https://remnant-p.com/china10.jpg 日本兵らと遊ぶ中国人児童ら (1937年)https://remnant-p.com/china04.jpg 道端に打ち倒されていた孫文の銅像に青天白日旗をかけてあげる日本兵https://remnant-p.com/China02.JPG 中国人の子供や大人と共に正月の万歳をする日本兵たち(1938年)すでに日中戦争が始まっていた時である。https://remnant-p.com/china05.jpg 中国人の子供を可愛がる日本兵(1938年) https://remnant-p.com/china01.jpg 「中国無名戦士の墓」と書いた墓標の前で、慰霊祭を行なう日本兵(1938年) 日本軍は戦闘が終わると敵味方の区別なく、戦闘地にお墓を作ってきた。中国の文化にはこのようなものはない。・当時、日本とタイ以外のアジアは欧米の植民地だった(インド→イギリス、マレーシア→イギリス、ビルマ(ミャンマー)→イギリス、インドネシア→オランダ、フィリピン→アメリカ等)・日中戦争(支那事変)が始まった年である1937年10月に、当時のローマ法王、平和主義者として知られるピオ11世(在位1922-39)は、日本の行動に理解を示し、全世界のカトリック教徒に対して日本軍への協力を呼びかけた。ローマ法王「日本の行動は、侵略ではない。日本は中国を守ろうとしているのである。日本は共産主義を排除するために戦っている。共産主義が存在する限り、全世界のカトリック教会、信徒は、遠慮なく日本軍に協力せよ」といった内容の声明を出している。</p>	C	<p>長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への反映等	長崎市の考え方
			<p>しかし、そのピオ11世もやがて1939年には世を去ってしまう。・インド代表ラダ・ビノード・パール判事「この裁判は日本が侵略戦争をしたかどうかを審議するのではなく、最初から侵略戦争をしたという前提に基づいての審議をし、大衆の心を支配しようとした」と批判。更に検察側の言う日本の侵略戦争の歩みを歴史の偽造とまで断言。イギリスやアメリカが無罪なら、日本も無罪であるとして、日本無罪論を発表した。・連合軍最高司令官ダグラス・マッカーサー「彼ら(日本)が戦争に飛び込んでいった動機は大部分が安全保障の必要に迫られてのことだった。日本の戦争は侵略戦争ではなく、自存自衛の戦いであった」と証言。(昭和26年アメリカ合衆国上院議会軍事外交合同委員会にて)そもそもチベット、ウイグル、法輪功信者等を現在も虐殺・臓器売買して中国が被害者側だと主張(中国擁護)しても説得力ありません。捏造南京大虐殺にすり替えられた日本人虐殺の通州事件なども忘れてません。【閲覧注意】通州事件(中国兵による日本人虐殺)1937年7月29日 https://tetsu-log.com/wp-content/uploads/2022/07/tsushu_03.jpg https://stat.ameba.jp/user_image.jpg【閲覧注意】(チベット・ウイグル弾圧、虐殺)http://blog-imgs-o1024064614782853341.jpg https://blogimg.goo.ne.jp/user_image/7b/12/68a8b9600ef95861b9cb74651092a22a.jpg慰安婦に関してもそうです。当時軍人の給料約80円に対し、慰安婦は約300円の厚遇を受けていた。本当に強制連行だったら奴隷なのでこのような待遇は一切ないです。こちらの問題も矛盾しており疑問だらけなので展示は当然不要です。日中戦争・太平洋戦争を強調、大東亜戦争・GHQ政策・東京裁判は無視して加害責任と言い出した時点で、平和活動ではなく反日活動にしか見えぬ正直胡散臭く感じました。リニューアル後はストーリー性を出したいとのことですが、自虐史観や反日要素、捏造の歴史を少しでも入れるなら反対です。もし、加害(捏造)展示をこり押しするならば長崎だけの話で終わると思わないでください。</p>		

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への反映等	長崎市の考え方
123	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	素案で示されている小委員会での検討内容は、世界史の中で日本を位置付けて、多角的な視点から、客観的事実に基づく展示を目指しているように理解できます。Cコーナーの「日中戦争と太平洋戦争」は、原爆投下に至る背景を展示するとしながら、原爆投下とは直接関係のない事項が多く、まるで日本が悪かったから原爆が落とされたという印象付けるかのような内容で違和感を強く覚えていましたので、素案には期待が持てます。素案の方向で展示の更新を進めてもらいたいと思います。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
124	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	長崎原爆資料館には、日本中だけではなく世界中から被爆の実相を学びに訪れます。「なぜ原爆が落とされたのか」日本が南京大虐殺などの侵略戦争を起こした結果原爆が落とされたことにつながったのだという歴史を学ぶことには、「戦争を二度としてはいけない。過ちを二度と繰り返してはいけない」と学ぶことはできないと考えます。特にアジアの人々にとっては理解されにくいでしょう。日本の加害・被害の歴史も含めて原爆の実相を展示するように望みます。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
125	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	日本は神国日本として天皇崇拜し、子供の時から家庭・学校・社会教育の中で覇権をとおり中国への侵略その他東アジアの各国を侵略し、幾多の一般人を殺害し、酷い事を無差別にしていた謝罪も賠償も反省もしていない。このことは真しに反省すべきだ。アメリカは戦後の日本を支配する為、ソ連の参戦であせって、原爆や投下（その前全国各地はアメリカの限らない空爆でやられた。）アメリカが戦後の日本を支配する為、ソ連の参戦であせって原爆を投下、320万人もの大量虐殺をやったことは絶対許されない。原爆で無惨に殺された人々の叫びを許さない。戦争が動きだしている。戦争は絶対してはならない。戦争反対と核兵器廃絶は長崎、広島市民の世界各国の強い願いだ、核抑止論は絶対反対です。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
126	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	基本計画（素案）には、概ね賛成です。特に、「いかなる理由があっても原爆投下は正当化できない」「核兵器は絶対に使用してはならない」という長崎のメッセージにつながる展示とする。と明記してあるのは、とても良かったと思います。現在の歴史展示は、日本が悪いことをしたから原爆を落とされた、という特異な歴史観を持つ方が市長の時代に企画されたためか、そうした原爆容認論を助長するような内容になっているように思われます。これを抜本的に改めて、ぜひ長崎のメッセージが伝わる展示にしてください。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
127	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	近年、戦争博物館を含む博物館全般について「ディズニーランド化」を進め、集客力強化を図るべきだ、という意見が散見されます。若い人を含めて、原爆や戦争について知ってもらう機会を提供する場という考え方には賛同しますが、「長崎を最後の被爆地にする」「戦争を2度と起こしてはならない」という基本は揺るがせてはならないと思います。戦争については、加害、被害、侵略、解放など、国によって都合の良い解釈がまかり通っています。日本でも、ややもすれば被爆や空襲など被害だけが強調され、日本軍が侵略地で行った加害については目をつむるという傾向が強かったと思います。日本だけではありません。アメリカは未だに「米国兵が死なずに済むことができた」と二つの原爆で20万人以上を殺したことを高く評価して謝罪をしていません。原爆について、被害だけを強調すれば、他国、特に中国や韓国、東南アジアなど日本が侵略した国々、の理解は得られないと思います。「二度と戦争をしない」という決意を実のあるものにするには、他国の共感・理解が欠かせません。お互いが被害と加害をさらけ出して、戦争の悲惨さを確認し合うことが第一歩となるはずで、その視点があって、初めて原爆資料館が「平和の発信地」になれるのだと思います。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
128	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	<p>【該当ページ・行数等】P22 (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示 イ 展示更新の方針【意見内容】「展示更新の方針」の(イ)のdに「客観的事実に基づいた展示」とある。現在Cコーナーの「日中戦争と太平洋戦争」に展示されている「南京大虐殺」は客観的事実である。「客観的事実に基づいた展示」の名の元に加害の歴史を曖昧にしてはならない。具体的には「南京大虐殺」の表記を「南京事件」と改めれば、過去に何が行われたかが閲覧者に正確に伝わらない。教科書の表記が「南京事件」とされているのは教科書があくまで未成年者向けのものであるための配慮であり、「南京大虐殺」を「南京事件」と変更する理由にはならない。「南京大虐殺」の表記は変更することなく残して欲しい。素案では「日中戦争と太平洋戦争」のタイトルを「原爆投下に至る歴史に関する展示・日本の過去の戦争と世界との関係」と改めることになっているが、これでは漠然として加害の歴史が曖昧となる。現在の「日中戦争と太平洋戦争」のタイトルのほうが加害の歴史を直接的に表しているので変更することなく、現在のまま残してもらいたい。米国が太平洋戦争に参戦するきっかけとなり、米国国民の心に最も刻まれ、原爆投下につながった日本軍による真珠湾攻撃の事実は「日中戦争と太平洋戦争」の中に加えるべきと思われる。</p>	C	<p>長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。</p> <p>なお、展示構成案に記載している、展示更新の対象としている項目名は、注意書きのとおり、検討段階における内容を表したもので、展示更新後の展示コーナーの名称ではありません。</p>
129	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	<p>P22 (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示イ 展示更新の方針 (ア) 歴史をきちんと見つめることが未来につながる、という姿勢に基づいて検討する。(意見) (イ) (ウ) については、展示すると明言しているのに、この (ア) だけは検討するとなっていることから、「歴史をきちんと見つめることが未来につながる、という姿勢に基づいて展示する」変えた方が良いのではないかと思う。</p>	A	<p>ご意見のとおり、第6章 展示更新の方針 1 - (3) - イ - (ア) 「姿勢に基づいて検討する。」を「姿勢に基づいた展示とする。」へ修正します。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
130	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	<p>(イ) d 戦争には被害と加害の両方の側面があるため、一面からではなく、多角的な視点から考えることができるよう、客観的事実に基づいた展示とする。(意見) ここに書いてある多角的な視点とは何を指しているのか分かりにくい。客観的事実とは、実際に起きた出来事、誰が見ても分かる内容の意味となっており、多角的に考えることは、事実がぼやけてしまう恐れがあり、この項目を削除するか、「一面からではなく、多角的な視点から考えることができるよう」までを削除した方が良いのではと思う。歴史認識については、原爆の被害の歴史だけではなく、原爆投下に至った歴史をきちんと展示することが重要であり、そのために日本が行ってきた加害行為も展示を行うべきと思う。よって、今のCコーナーで展示されている「日中戦争と太平洋戦争」を残すことを要望する。</p>	C	<p>長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。</p>
131	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	<p>原爆は国際法に反する大量殺戮を目的とした兵器です。アメリカはこれを一般市民に向けて使用し、今だに謝罪さえしていません。現在もアメリカ人の殆どが「原爆によって戦争が早く終り、多くの命が救われた。」と信じています。また、琉球大学の高嶋名誉教授などは、「シンガポールでは原爆は自由の象徴だ」「原爆があったから自由になれた」などと、言論の自由が無い国の情報をそのまま自身の情報として発信しています。このような内容をそのまま掲示することになれば、海外のプロパガンダが被爆地長崎の原爆資料館で正式に採用されたことになり、アメリカからの謝罪などほど遠いこととなります。また、原爆によって尊い命を奪われた人々に申し訳ができません。、日本がアジアの国々を侵略したから原爆を落とされることになった、という言い方は決して納得できません。</p>	C	<p>長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
132	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	学校の教育でも戦争にいたった真実を教えていない。原爆の怖さ・実体を知らせるのはいいが米国がなぜ日本に原爆をおとしたのか、日本がアジア諸国をヨーロッパからの侵略を防ぐために戦争をしている、ほんとうの真実を原爆を説明する前に書くべきではないですか。大学教授のうその説明より真実を知りおしえるべきではないですか。そして米国に陳謝と補償をいうべきではないですか。真実をいってこそ日本国のためになくなっていった先人たちに胸をはっているのではないですか。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
133	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	展示内容の在り方について1.第二次世界大戦と原爆投下の意味付け。とりわけ、日中戦争含むアジアへの侵略と加害の歴史表記を拡大すべきである。中国をはじめ戦禍を受けたアジア諸国の原爆観は「戦争・侵略→原爆投下→勝利・解放」というもの。加害の歴史抜きには原爆被害への理解は得られない。問題になっている南京大虐殺表記内容は、学術的にはすでに解決済みの歴史的事実。史実に関する判断基準はこれまでの中・高校の歴史教科書ではなく、学術的な表記・記述へと改正すべき。そのため、専門の学芸員の配置を求める。2.広島そして長崎へも投下された意味と違い。米国は原爆投下を戦争終結のためと言う。広島だけなら、大義名分として通用するかもしれない。では、なぜ二度目となる長崎へ投下したのか？ウラニュームとプルトニュームの毒性等の科学的な違いにより、新たな核実験に過ぎないという説もある。投下後、いち早く入市したABCCによる影響調査では人体への影響は調査するが、治療はなかった。こうした問題を問いかける、気づきを促す展示内容も必要。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
134	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	素案の内容におおむね賛成です。現在の展示のように、南京大虐殺のような原爆とは直接関係がなく、歴史的事実としても議論されているものについては、なくすべきだと思います。原爆の悲惨さ、平和を核軍縮に向けた取り組みを訴える資料館であってほしいと思います。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への反映等	長崎市の考え方
135	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	素案にあるように、客観的事実、多角的な視点に基づいた展示をしてほしいと思います。国内外、県内外からも多くの人があるからこそ、平和や原爆についての理解、考えが深まるようにしてほしいと思います。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
136	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	展示更新の方針で、「各コーナーのねらいを明確にし、来館者に問いかけ、考えさせる展示とする」ことは重要です。「原爆投下に至る歴史に関する展示」について、長崎原爆資料館ですから、「広島に続いて、なぜ長崎に原爆が投下されたか」という問いに対する展示の充実が必要です。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
137	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	原爆投下に至る歴史に関する展示について この点については、館の開館当時以来、思想的論争を呼ぶなど市民の間には様々な意見があります。行政が行う館の運営としては、一方に偏らない公正な展示が求められます。また、原爆による惨禍を背景として「核兵器のない平和な世界」を求めることを目的とする館としては歴史に関しては「展示更新の方針」のとおり「客観的事実に基づいた展示」に努めてほしいと思います。その意味から、開館当初にも採用した「教科書(中高校)の内容」を基準とすることがよいと思います。教科書の内容も時代と共に変化しているようですので、客観的資料としてふさわしいのではないのでしょうか。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
138	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	私が15年ほど前にイギリスに旅行した時に、イギリスの方が長崎出身と告げると、「ごめんなさい」と言われました。英国がマンハッタン計画に関与していることをご存じでした。8月は近くで原爆の慰霊祭があり参加している。また、イスラエルとパレスチナの青少年と日本での交流が長崎で開催された際に自分たちは戦争しか知らないが長崎の復興の歴史を学ぶことは希望だと語っていました。原爆は人が戦争の中で使用して甚大な被害をもたらしたものの。原爆資料館の人類へ果たす役割は大きく、戦争をなくすためには戦争に陥った歴史戦争そのものの加害の歴史を明らかにしてこそ海外の方にも学んでいただけたと考えます。まして、憲法で戦争をしないと誓った日本の子供たちにも被害も加害も展示して海外の方とかみ合った展示にして頂きたい。アジアの方との連帯も加害を展示してこそ可能です。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
139	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	これまでの展示内容とは変わり「客観的」「多角的」という視点で構成されておりとてもよかったと思う。ある特定の思想を前面に出すのではなく、あくまでも過程、経過、実情、現状等を様々な視点で展示し、来館者に原爆や核兵器について考えてもらうことが本来の姿であると思う。ぜひ、客観的事実、多角的な視点からどの世代にもわかりやすい内容にしてほしい。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
140	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	資料館を訪れる全世界の皆さんに伝わるようしっかりと日本への加害責任、戦争責任を明記し、「核兵器の廃絶」こそが被爆県長崎としての強力なメッセージになると考えます。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
141	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	長崎に原爆が落された理由はいろいろな角度から話されていますが、原爆が投下されたのは、日本軍が中国や東南アジア地方で侵略を強め戦争を終結しようとしなかったからです。特に中国満州での侵略行為は酷かったのではと思います。これら戦争の歴史をキチッと反省するような展示をすることが入館者のみなさんに理解してもらえらると思います。是非とも先の戦争を反省し、戦争の歴史を正しく理解して頂くような展示をするようにして下さい。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
142	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	日中戦争中の南京事件を中心に書きました。非常に重要な案件なので取り上げました。○「南京占領時、大虐殺事件がおこる」と表記されていますが、実際にはおきていません。（理由は別添書きます。添付6枚）○1937年12月7日蒋介石らが南京を脱出しています。この事を年表に入れた方が良いと思います。○1937年8月「第2次上海事変勃発」を入れた方が適切だと思います。この事変は日中戦争の始まりともいわれています。このことがおこらないと南京占領に至らなかったと思います。○「戦いは上海に飛火した」とのビデオ解説ですが上海で中国軍が日本軍に攻撃を仕掛けたのが歴史的事実です。○南京占領時の写真がありますが、キャプションを付けて下さい。他に写真がたくさん残っています。大半は中国民族と日本軍兵士の和気あいあいとした写真です。（別添）南京で大虐殺事件がおきていない理由で私が重要だと思うことを書きます。①外務省の見解 外務省のホームページには南京事件について「日本政府としては、日本軍の南京入城（1937年）後、非戦闘員の殺害や略奪行為等があったことは否定できないと考えています。しかしながら、被害者の具体的な人数については諸説あり、政府としてどれが正しい数字かを設定することは困難であると考えています」とある。阿羅健一氏は外務省がどのように記述する根拠は何なのか。どのような資料をもとにこう記述しているのか。」2021年3月15日に開示を求めた。2022年1月14日回答がきた。それによると、「関係するファイル内を探索しましたが該当文書を確認できなかった。」と理由をあげて「不開示（不存在）」となっていた。記述のもととなる資料が外務省にはないというのである。（参考文献2023年「正論」3月号阿羅健一、南京事件はなかった目覚めよ外務省！2022年12月阿羅健一）	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への反映等	長崎市の考え方
			<p>②東京裁判における南京の虐殺事件 東京裁は三つの目的をもった裁判であるといわれている。一つは「歴史の断絶」、その二は「罪の意識の扶植」である。971年6月から7月にかけて中国を取材して被害者の証言を聞き同年8月から12月に朝日新聞紙上に「中国の旅」を掲載した。そのうち南京に滞在したのは7月10日から12日迄の2泊3日だけです。証言者は中国共産党が準備した人物で、中国の意向をそのまま日本の読者に知らせたのです。極限の民族ベトナム戦争などのルポルタージュ記者として有名だったので、読者がすっかり騙されたとしても仕方がありません。この新聞記事はその後多大な影響を与えました。南京事件を中心に書きました。盧溝橋事件は中国側からの発砲が有力です。張作霖爆殺事件は、ソ連特務機関犯行説も出てきております。原爆資料館の年表やビデオ解説の文言には慎重にお願い致します。日本は歴史の事実を求めていく考え方です。中国は事実は問題ではなくそうあるべきという考え方です。この根本的なことを頭に入れておかないとわからなくなってきました。現在の中国で南京大虐殺に疑問をもつことはできません。教師が教室で大虐殺にそぐわない話をしたところ生徒から指摘され職を辞めることになった例もあります。その三は「復讐」である。東京裁判は人道に対する罪を設け、南京虐殺事件をそれに該当させるというシナリオをまずつくった。偽証罪は問わない。検証もしない。伝聞、うわさ話、創作、デッチあげ何なりと提訴せよ。裁判所は検証なしですべて採択した。承認の一人、マギー米人牧師は、市民が殺されていくさまを一時間以上にわたり証言する。終わると、強姦がいたるところで起きたと一時間以上つづける。すさまじい証言はこの日で終わらず、さらに翌日、略奪と放火を証言する。最後にアメリカの弁護人ブルックス大尉が尋問する</p>		

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
			<p>。「それではただいまお話になった不法行為もしくは殺人行為の現行犯をあなたご自身いざご覧になりましたか」「ただ僅か一人の自演だけ自分の目で目撃しました」南京事件に関し1ヶ月以上にわたり証言、口述書、証拠書類が朗読された。これらはGHQ制作の「真相箱」というラジオ番組で放送された。</p> <p>(参考文献 「南京事件」の総括 田中正明2007年7月 1987年初出 南京事件はなかった目覚めよ外務省！ 2022年12月阿羅健一)</p> <p>③国民党国際宣伝処とベイツメモ 国民党中央宣伝部の宣伝工作进行を記録した「極秘文書」には、「対敵宣伝課は1937年12月1日に工作进行を開始した」とあり、「われわれは目下の国際宣伝において中国人自ら決して前面に出るべきではなく、われわれの抗戦の真相と政策を理解してくれる国際友人を探し出して我々の代弁者となってもらおう」とある。12月15日、アメリカ人宣教師で南京金陵大学教授、国民党政府顧問であったベイツは南京陥落3日後に南京を離れる新聞特派員5人に「利用してください」とベイツメモを渡している。その中には南京城内での日本軍の殺人、略奪・強姦などありもしない残虐行為が「外国人の目撃談」として書かれていた。このベイツメモに基づいて米国の新聞二紙が「南京虐殺」を世界で初めて報じた。</p> <p>④南京の人口 南京安全区国際委員会の人口調査によると占領直前の南京市民20万人。翌年1月は25万人に増えている。</p> <p>⑤南京事件で戦後処刑された日本人は、松井石根大将、谷寿夫中将の二人です。直接手を下した兵士は存在するのでしょうか。</p> <p>⑥「中国の旅」朝日新聞スター記者で戦場の村などのルポルタージュで知られた本多勝一は日中国交正常化（1972年9月）前年の1</p>		

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への反映等	長崎市の考え方
143	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	歴史は正しく伝えなければ、同じ過ちを繰り返します。国際的な観点からこれから生きていかなければならない特に、子ども達、若者たちに「加害の歴史」も伝えていかなければ結局信用されないでしょう。被爆の実相を伝えることと同時に、何故、原爆が落とされる事態になったのかを知らせることが重要だと思います。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
144	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	市議会の一部の意見を聞いて日本の戦争責任の展示を変えたり展示しないのは、大きな誤りであり、とうてい納得できません。正しい歴史観を持つ事が必要です。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
145	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	「いかなる理由があっても原爆投下は正当化できない」「核兵器は絶対に使用してはならない」という長崎のメッセージにつながる展示とする。と明記してあるのは、とても良かったと思います。これまでの展示だと、原爆の恐ろしさだけが強く印象に残り、その後世界の平和へ思いを向けることは大変難しいと感じます。核兵器の廃絶のための道筋が示され、若い世代や子どもたちが未来への希望を考えることができる展示になっていくことを期待します。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への反映等	長崎市の考え方
146	第6章 展示更新の方針	(3) 原爆投下に至る歴史	<p>4. (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示 「戦争から遠くなった世代がわかりやすく理解することができ」とあるが、戦争は“アジア・太平洋戦争”のことだと理解していきたい。</p> <p>22 p「展示更新の方針」で 「(イ) 戦争という大きな時代の潮流を理解するため、次の点を踏まえた展示とする。」とされ、aからdの4点が記載されているが、13 pの小委員会の「原爆投下に至った背景を理解するうえで必要な4つの視点」というものが反映されて居ないように感じられるが、少なくとも、「戦略爆撃の展開」や「核開発の歴史をより大きな大量破壊兵器の開発の歴史の中に位置づけること」も「展示の主な内容」には必要ではないか。</p> <p>「d 戦争には被害と加害の両方の側面があるため、一面からではなく、多角的な視点から考えることができるよう、客観的事実に基づいた展示とする。」とあるが、わかりづらい。</p> <p>単純に、大日本帝国という国家がアジア・太平洋地域を占領し加害行為を行ったという事実の指摘であれば、そうした事例をいくつか記載したような展示で十分であろう（南京事件など、研究としてもまた展示用の確実な史料でも、歴史事項を記載しておけばよいので）。</p> <p>この加害・被害の問題では、「戦略爆撃の展開」などは展示したほうがよいように思います。小委員会で指摘された錦州爆撃は、いいかたはよくないが参謀の石原らによるたぶん実験的な行為だった段階でしたが、「国際法」に違反し住民を「無差別」に爆撃する行為の始まりではあるものです。そういったことから重慶爆撃など、日本の戦争の「加害」行為事例などに言及しておくこともいいのかもしれない。戦略爆撃の最終形態で大量破壊兵器の極みが原爆であるということからすると、原爆による被害として強調することもできます。</p> <p>ただ戦時中の日本国民・民衆が、被害者でもあり加害者でもあるという＜両義＞的な存在であったという意味なら企画展示でもしないと難しいのではないのでしょうか。植民地支配・占領地支配の問題や結果としての加害責任の問題、を何らかの形で展示物に反映しなければならないとも思いますが、なかなか難しいと考えます。</p>	C	<p>長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
147	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	<p>長崎と平和を愛するものです。今回のパブコメに関わって、南京虐殺などの表記を展示からなくす動きがあると聞き一言書かせていただきます。広島の人、栗原貞子さんのあまりにも有名な詩を引用します。ヒロシマの代わりにナガサキと置き換えて読んでください。歴史のことがあるので、日本の主張をする時には過去に誠実に向かう、これがその第一歩だということだと思います。尊敬し敬愛する長崎がこれからも変わらずに、本当の平和の大切な発信源でい続けてください。どうかよろしくお願いします。――『ヒロシマというとき』栗原 貞子〈ヒロシマ〉というとき〈ああ ヒロシマ〉とやさしくこたえてくれるだろうか〈ヒロシマ〉といえば〈パールハーバー〉〈ヒロシマ〉といえば〈南京虐殺〉〈ヒロシマ〉といえば 女や子供を壕のなかにとじこめガソリンをかけて焼いたマニラの火刑〈ヒロシマ〉といえば 血と炎のこだまが 返ってくるのだ〈ヒロシマ〉といえば〈ああ ヒロシマ〉とやさしくは返ってこない アジアの国々の死者たちや無告の民が いっせいに犯されたものの怒りを 噴き出すのだ〈ヒロシマ〉といえば〈ああ ヒロシマ〉と やさしくかえってくるためには 捨てた筈の武器を ほんとうに 捨てねばならない 異国の基地を撤去せねばならない その日までヒロシマは 残酷と不信のいがい都市だ わたしたちは潜在する放射能に 灼かれるパリアだ〈ヒロシマ〉といえば 〈ああ ヒロシマ〉と やさしいこたえが かえってくるためには わたしたちは わたしたちの汚れた手を きよめねばならない</p>	C	<p>長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に関するパブリック・コメントにおける意見要旨と市の考え方「2 意見要旨と市の考え方ー（2）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。</p>
148	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	<p>加害の歴史こそが重要です！絶対に蓋をしてはいけません。次の戦争を防ごうとするなら、加害を反省しなければ。大人が醜い過去の事実を正視しないなら「日本は悪くない」と外国からの批判に耳も貸さず、平和外交などできるわけがありません。外交も人間がやることゆえ、突っ張って強面で向かうのではなく、国民同士仲良くやっていくための代表者が謙虚に事実を学ばなければなりません。</p>	C	<p>長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への反映等	長崎市の考え方
149	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	私が最近入手した情報によると、見学者が巡る順路の最後のあたりにあった「第2次大戦中、日本による加害があった」という趣旨の短い説明文が、今回の長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に伴い、撤去されるとのことです。同素案には、これに関する記述はないようですが、この説明文を撤去しないよう求めます。日本の広島と長崎は、米国の戦争の国際ルールに反する非人道的な原子爆弾による甚大な被害を被っています。しかし、日本は周辺の東南アジアの国々に対し、戦争の国際ルールに反する非人道的な攻撃を含む侵略行為を行い、沢山の犠牲者を出すなど、大変迷惑をかけています。資料館において、米国の非道を一方的に提示し、この日本の加害に触れないならば、フェアではなく、逆に説得力をなくする結果となります。歴史修正主義者などによる、非知性的な「不都合な歴史を抹殺する行為」を許してはなりません。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
150	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	素案の流れに基本的に賛成です。しっかりと客観的事実に基づいた展示をしてください。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
151	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	早く南京大虐殺等の原爆には直接関係のない展示を撤去してもらいたい。原爆のことを正しく、して考えてもらいたい。そのうえで、素案の内容、流れはよいと思う。早く実現してほしい。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への反映等	長崎市の考え方
152	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	原爆投下に至る歴史に関する展示についてなのですが、アメリカがどのような経緯で日本に原爆を落とすことになったのか、広島、長崎はどのような理由があつてアメリカの標的になったのか明確にする展示内容にするべきだと思います。今の展示では、その点が少しわかりにくいと感じました。素案にその点も記していただきたいと思います。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
153	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	原爆投下に至る歴史に関する展示には、アメリカが日本に原爆を落とす決めた背景や広島、長崎を標的にした理由を説明することも大切だと思います。もっとわかりやすくはっきりと示した展示をお願いいたします。素案にその点を加えていただけますと幸いです。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
154	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	素案に示された展示更新の方針に賛成です。とりわけ、原爆投下に至る歴史に関する展示についての「展示更新の方向性」について、その通りだと思いました。日本の加害があつて原爆の被害があつたような展示にはならないようにしてもらいたいです。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
155	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	素案の中に明記された「いかなる理由があつても原爆投下は正当化できない」とあるのがとても良いと思いました。原爆に対して、日本が悪いことをしたから原爆が落とされた、というような一方的な視点で語られることが多くありますが、それは原爆容認論を助長するよう思われます。日本の加害についてを強調するような今の展示は、長崎の本来伝えたいメッセージが伝わらないように思います。日本が悪いから落とされたという事を子供たちの意識に植え付けるのではなく、いかなる理由があつても原爆投下は正当化できないし、許されるものではない、そのうえで今の国際社会にどう立っていくのか問うことが、具体的な平和を考える一歩になると思います。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への反映等	長崎市の考え方
156	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	私は、市の方針に賛同します。私はこの原爆の実相や歴史を話す上で、小学生の時から原爆の実相と南京大虐殺、中国との問題は関係はないと思っていました。原爆の悲惨さと平和を尊さを長崎から発信するためには、禍根の残るようなことを取り上げる必要はないのではないかと感じます。今多角的にものを考える力を子供たちに求めているので、市がそのような展示をしようとしているのは、とてもいいのではないかと思います。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
157	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	「原爆投下に至った背景を理解するうえで必要な4つの視点」で、気になったところがあります。「平和思想の後退」が「日本による」と限定されていて、日本が平和を後退させていると言われているように思います。形の上では日本の行為が後退をもたらしていたとしても、それには日本を取り巻く国際環境の悪化という背景があるのではないかと、といった問題意識から、視野を広くして多角的な視点をもった展示にすべきではないかと思いました。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
158	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	<p>長崎で平和教育を受けてきた身として、日本が戦争を起こした、日本が悪かったから原爆を長崎に落とされた、という一面的な教わり方しかないことに、どこか違和感を感じていました。もちろん、戦争は起きてほしくないですし、長崎を最後の被爆地にすべきであると思います。しかし、戦争は100%こちらが悪い、あちらが悪い、というものでないと思うので、原爆投下に至る歴史を展示している原爆資料館として、色々な国の目線、立場に立って、多角的な視点から客観的事実に基づいた展示へ、更新を進めて欲しいと思いました。また、小会議を傍聴させていただいた際、南京大虐殺についての展示の有無を議論されていたのを見て、なぜ長崎の原爆投下に至る歴史を展示する原爆資料館で、南京大虐殺についての展示に関して議論をされているのか、私は理解ができませんでした。もし仮に南京大虐殺が歴史的事実として日本に完全に非があったとして、それを日本人として知っておく責任は確かにあるかもしれませんが、今ここで議論すべきは南京大虐殺のことよりも、アメリカが日本、広島・長崎に原爆を投下した意図など、原爆投下に直結する背景をいかに明確にするか、ということだと私は思います。目を向けるべき歴史にきちんと目を向けて、展示を更新していただきたいです。そして何より、長崎、日本は、非核三原則を掲げている国で、核の恐ろしさを身をもって経験している唯一の国である中、中国など核保有国の意向を汲むような展示となっている現展示は、むしろ核保有を推進しているように受け取られかねないと思います。全国から、そして海外からも来場客がいる原爆資料館だからこそ、長崎として、日本として、「核兵器は決して使ってはいけない」というメッセージを正しく伝えられるような場所になってほしいです。長崎原爆資料館の展示更新がなされることを強く望みます。</p>	C	<p>長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への反映等	長崎市の考え方
159	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	小委員会で原爆投下に至る歴史に関する展示について議論された、歴史から学び未来に活かしていくことや客観的事実から多角的に考えられるような方向性というのは、それぞれが様々な事実から考えこれからは活かしていける学びを作ることができそうで良いなと思いました。それに必要な4つの視点というのも画期的なよい内容でした。そうした展示の中でなぜ日本の中の長崎が選ばれ、長崎の中でも浦上付近に落とされたのかということも明記して頂けたらと思います。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
160	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	「いかなる理由があっても原爆投下は正当化できない」「核兵器は絶対に使用してはならない」という長崎のメッセージにつながる展示とする。と明記してあるのは、良かったと思います。現在の歴史展示は、日本が悪いことをしたからアメリカに原爆を落とされた、というような「原爆容認論」を助長するような内容になっていると思います。それでは、日本人も海外の人も「核兵器を廃絶しよう」というより、「日本は反省しなければならない」「悪いことをしたのだから原爆を落とされても仕方ない」とそこで考えが止まってしまい、原爆を開発し、落としたアメリカがなぜそのようなことをしたのかということも考えられなくなり、核兵器廃絶からは遠ざかると思います。これを根本的に改めて、ぜひ長崎のメッセージが伝わる展示にしてください。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
161	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	今回の素案に示されている展示更新の方針に賛成します。原爆投下における歴史に関して、「展示更新の方向性」納得できます。日本に加害があったから原爆が落とされたのような一方的な視点ではなく、なぜアメリカが原爆を落としたのかや原子爆弾が使われたかなど多角的な視点物事を考えることができる展示になったらいいなと思います。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への反映等	長崎市の考え方
162	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	私が小学生の時、修学旅行にて原爆資料館に行き展示を拝見しましたが、その時に抱いた感想は「日本が悪いことをしたから原子爆弾を投下された。今は平和で良かった。戦争は二度としてはいけない。」というものでした。ただ、当時の戦争について学ぶ機会があり、触れた史実はとても「日本が悪いことをしたから原子爆弾を投下された」とは言えないものでした。米国が、どのような狙いをもって原子爆弾を投下したのか、なぜ長崎を標的としたのか、長崎のどこを原子爆弾を落とそうとしたのか等々、米国から出されている資料をもとに米国の視点で考えれば考えれるほど、「日本が悪いことをしたから原子爆弾を投下された」という言葉には違和感しか抱くことができませんでした。そのため、素案にある方向で展示の更新を支持します。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
163	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	資料館展示更新に当たり、これまであった日本による加害の事実を表記した部分が削除されそうだと知人にききました。以前、「原爆の図」を描かれた丸木位理、俊夫妻がアジアで絵を展示した時「被害のみを訴えるのであれば共感できない。」と友人に言われたそうです。加害の事実をないことにすれば日本はどこからも信頼されない国になります。やってはいけないことです。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
164	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	確かに日本は第二次世界大戦中に敵国の兵士を手にかけてと同時に、敵国からの攻撃も受けその中で広島と長崎に原爆が落とされた。これは紛れもない事実である。だが、日本にも日本なりの正義があり、思いがあり、死んでいった兵士の方だけ家族がいる。これは敵国も同じである。「日本が悪かったから原爆を落とされた」ではなく、異なる正義を掲げた国同士が戦争を行い、原爆が投下され、日本は敗戦した。「侵略と加害」ではなく、正義を伴う日本側の領土の防衛である。自虐的な展示のための過度な表現はやめてほしい。また、市の公の施設、特に平和を願う原爆資料館で史実とも言えない事件を展示するのはいかなものかと思う。改善に期待する。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
165	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	私は、いかなる理由があっても原爆は投下してはならないと思います。なので戦争加害の歴史を話しても、それが落としていい理由にはならないと思いますし、実相を伝えたいなら歴史は関係ないと思います。したがって市が「いかなる理由であっても原爆投下は正当化できない」と書かれていることにとても賛同できました。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
166	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	素案にするされた展示方針に賛成します。私は、大学に入学するまで、日本が悪いことをしたから原爆が投下されたということを思っていました。しかし、当時の戦争について大学にて、とある機会に学んでいった際に、日中戦争と原爆投下の関連性について疑問を抱きました。原爆投下したのはアメリカです。加えて、ソ連が日ソ不可侵条約を破った後に、アメリカは原爆投下を決定しました。当時のアメリカに思惑があって、アメリカの利益のために原爆投下をしたとしか考えられません。そのため、一方的に日本が悪いことをしたから原爆投下をされたのではなく、様々な国々の思惑があり、結果として原爆投下があったと思うので、客観的な史実に基づいた展示をしてもらいたいです。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
167	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	以前、原爆資料館に行ったことがあります。日本が悪いことをしたから原爆が落とされたという内容が強いと感じました。ただ、本当に日本は悪いことをしたのでしょうか。私は、戦没学徒の遺書を読んだことがあります。東亜の解放のため、アジアの国々のために戦うという言葉がありました。実際に、アジアの国々には、現在も親日の国々が多く、アジアの指導者には、当時の日本がアジアの国々のために戦ったことへ感謝の言葉が残されています。悪いことをしていたら、絶対に生れない言葉だと思います。一方的に、日本が悪いことをしたから原爆が落とされたというのは、あまりにも偏っているのではないかと疑問を抱きます。ぜひ、素案の方向で展示の更新を期待します。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
168	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	<p>展示更新の方針に関して、私は概ねこちらで問題はないと思います。特に原爆投下に至る歴史に関する展示については、なぜ日本の展示で小学生の子供たちも大勢見学に来るにも拘らずこれほどまでに日本が悪い、日本の思想が問題だと自虐的な展示をするのだろうかと思っていました。もちろん戦争において一方だけが悪だということはありませんが、こと原爆に関しては明らかに日本は被害者であり一般市民を対象としたテロ行為であると思います。今後は客観的で多角的な事実を展示するとともに、見学する子供たちに、ただ原爆の悲惨さ戦争の醜さを伝えるだけでなく、戦争の中で命を賭して今の日本を守った方々の雄姿であったり、日本はこれほどまでに悲惨な状況から立ち上がったのだ、前進してきたのだというような日本のことを誇りに思える展示をしていただきたいです。</p>	C	<p>長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。</p>
169	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	<p>素案に書かれた展示方針に賛成します。小委員会に参加した知り合いに聞いた時に、戦争時の新聞は信用ならないから、軍部に操作されたものだという意見があったと聞きましたが、戦後こそGHQの占領政策で検閲がされているので、戦後の新聞も根拠にならないと思います。何が事実か選別するのが難しい中で、事実か事実ではないかという問題ではなく、平和を希求する精神を幅広い世代に感じてもらうには客観的で多角的な目線から、書かれる必要があると思います。</p>	C	<p>長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
170	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	原爆資料館は、「核兵器は絶対に使用してはならない」、「どんな理由があっても原爆投下を正当化してはいけない」ということを世界に発信することが一つの使命だと思います。原爆投下により、どんな被害があるのかを展示により伝えることはとても大切だと思います。しかし、私が原爆資料館に行き抱いた感想は「日本が悪いことをしたから原爆が落とされた」というものであります。一方的な「日本が悪いことをしたから原爆が落とされた」という視点で展示をするよりも、もっと「核兵器は絶対に使用してはならない」、「どんな理由があっても原爆投下を正当化してはいけない」ということを前面に押し出すことの方が重要だと思いますし、せめて客観的な視点で史実をしるすのが大切だと思います。そのため、素案に内容を支持します。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
171	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	私は、被爆直後に生まれ今まで長崎でずっと過ごしてきましたが、原爆資料館は思想の対決の場ではなく、本当に若者が平和を求める心を育めるような場所にすべきだと思います。おどろおどろしいものも風化しないようにするために必要ですが、子供たちはシャットアウトしてしまうのではないかと思います。そうではなく、今回市が出されている原爆投下に至る歴史を多角的に、客観的に述べられることが大切だと感じます。自分たちの主義主張ではなく、子供たちに本当に伝えるべきことは何か考えながら、私も展示について考えたいと思います。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
172	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	日中戦争と太平洋戦争のコーナーは違和感を感じます。自分の兄弟や、夫は東亜解放を目的に戦地に赴き、現地の人と一緒に植民地を開放する為に戦ったという事実があるにもかかわらず、侵略者だとレッテルを貼られるのは、悔しいです。亡くなった方の無念となってしまうので、加害展示をし続けられるのは胸が詰まるような思いです。したがっていかなる理由があっても原爆投下は正当化できないという言葉は大変共感できました。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
173	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	素案にある展示更新の方針を支持します。これまで、日本が悪いことをしたから原爆が落とされたという一方的な視点はおかしいと思っていたので、この機会に客観的な視点から展示をしてもらいたいです。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
174	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	素案に示された展示更新の方針に賛成します。特に原爆投下に至る歴史はおおむねその通りだと思います。またアメリカがなぜ日本に落とそうと思ったのかを知りたいと思いました。日中戦争や南京大虐殺といわれても、アメリカには何の関係もないと思うからです。筋が通っていないと感じます。なのでどのようなアメリカのロジックの中で決まったのか、なぜ浦上上空なのか、きちんと知ることが、今の国際情勢を考える中で、必要な視点だと感じますし平和につながるのだと思います。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
175	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	多角的な視点から、客観的な史実に基づいて展示をすることは大切なことだと思いました。そのため、素案の方針を支持します。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
176	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	<p>今般、貴資料館の展示から、過去の日本が戦争加害を行ったことの記録を一部展示からなくす動きがあるとの情報を得ました。日本は確かに原爆をはじめとする、戦争の被害を多大に受けてきました。日本は戦争の被害国であると同時に加害国でもあります。第二次世界大戦に至るまでも、当時の軍国日本が、アジアの多くの国々に残虐な加害を与えてきたのは、歴史の事実でありそれをたくさんの記録が証明しています。台湾や、朝鮮半島、中国の一部を我がものにしてきたこと、アジア、東南アジアの諸国を侵略し、極悪非道な殺人や、人をモノ以下の扱いをしてきたこと…これ以外にも枚挙にいとまがありません。日本がパールハーバーを奇襲攻撃をしたことをきっかけにアメリカとの戦争、連合国との戦争を激化させていったのも事実です。学校教育では充分学ぶことが出来なかったことが、社会に出てからのたくさんの学びの機会で見られました。特に日本の過去の加害行為については、社会に出てはじめて知ることが圧倒的に多かったです。原爆の被害がいかに残酷で、目を背けたくならなかった事実も、長崎の原爆資料館や、広島平和記念資料館を幾度となく訪れ、はじめて、そのこの世のものと思えない「残忍さ」を知ることができました。学校教育やマスメディアなどでは、学び得ないたくさんの事実をリアルに描く、長崎原爆資料館の展示こそ、制限なく、一部のバイアスのかかった圧力などに屈することなく、毅然として、事実をありのまま余すことなく、後世に受け継ぐべく知らしめることが何より平和な日本を保ち続けるべき私たち日本人としての責務ではないでしょうか？どうか、歴史を曲げることなく、次の世代に平和な日本をしっかりと受け継ぐためにも、ご高配いただきますよう切にお願い申し上げます。</p>	C	<p>長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。</p>
177	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	<p>「原爆投下に至った背景を背景を理解する上で必要な4つの視点」というのは、大切な視点だと思いました。日本が悪いことをしたから原爆が落とされたという一方的な視点とならないように、素案にある方針で展示を更新していくことは大切だと思います。</p>	C	<p>長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
178	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	原爆投下に至る背景を理解するうえで、必要な4つの視点は斬新で、画期的な内容だと思いました。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
179	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	加害の歴史を主に研究しています。先の大戦における、加害の歴史に言及しない展示では、片手落ちになると思います。ドイツでは、首都のど真ん中にナチスのユダヤ人迫害の歴史的展示があります。少しでもいいので、加害の歴史に触れた展示も続けてください。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
180	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	原爆資料館は、アジアの人たちをはじめ、世界中から多くの人々が訪れ、「なぜ長崎に原爆が落とされたのか」を学びます。被害だけではなく、日本が過去にアジア各国を侵略し、多大な被害を与えたことを展示していかなければ、見学した人々は、正しい認識ができないと思います。「核のない世界」「2度と戦争をくり返さない」ためには、南京大虐殺などの歴史を展示して、被害の実相を伝えていくことが大切だと思います。博物館とは違うので、きちんと加害・被害の資料を展示して世界に通用する原爆資料館にしてほしいと思っています。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
181	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	市と市民が核兵器廃絶、世界恒久平和を願い、展示を通してそのメッセージを世界に伝えるという原爆資料館の責務から考えると南京大虐殺について南京戦があったというくらいの展示では世界に伝わる展示にはならない。そもそも南京占領の際に「大虐殺事件」が起こされていたことは学術的に確認済みの歴史的事実である。歴史をきちんと見つめることが未来につながるという姿勢に基づいた展示にすることが必要です。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方— (3) 原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への反映等	長崎市の考え方
182	第6章 展示更新 の方針	(3) 原爆 投下に至る 歴史	素案の内容は大きな問題点があると思います。南京大虐殺に象徴される「負の歴史」についての展示を歴史の事実から離れる方向になると懸念されます。素案のままでは世界に伝わる展示にならないと思います。また、素案では「核抑止論」を認めるかのようなニュアンスになっています。原爆資料館の展示が、世界に平和と核兵器廃絶を訴えるものになることを願っています。	C	長崎原爆資料館展示更新基本計画（素案）に対するパブリック・コメント結果一覧「2 意見の内容と長崎市の考え方ー（3）原爆投下に至る歴史に関する展示に対するご意見について」に記載のとおりです。いただいたご意見は、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。
183	第6章 展示更新 の方針	(4) 核兵器の 開発・ 現状	私は、2023年夏にウィーンで開催された、NPT再検討会議第一回準備委員会に出席させて頂きました。そこで、カザフスタンで核実験により被爆の被害を受けた方との交流がありました。核実験やウラン採掘などで被爆された世界の方々を「グローバルヒバクシャ」と呼び、その実態が、まだ世界に広く知られていないことを知り、同じ被爆地から参加した身として衝撃を受けました。比較できるものではありませんが、被爆者の数、被爆の回数については、長崎を大幅に上回っており、こうしたグローバルヒバクシャの事も理解できる展示があると、より、長崎の被爆の実相に迫ることができると実感しました。現在も、展示の最後のエリアに少し触れられていますが、最新の情報や、何名かにスポットを当てた形での展示など、「グローバルヒバクシャ」に触れる展示を提案いたします。	C	第6章 展示更新の方針1-(4)-イ- (ウ)として「核兵器開発や核実験によって世界中にヒバクシャが存在し、現在も苦しんでいることを伝える」、また、「長崎の被爆者との共通点や違いについても理解できる展示とする」、こととしており、ご意見の内容も参考に検討してまいります。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
184	第6章 展示更新 の方針	(4) 核兵器の 開発・ 現状	【該当ページ・行数等】P23 (4) 核兵器の開発の歴史・現状に関する展示 イ 展示更新の方針【意見内容】「イ 展示更新の方針」の(ウ)に「核兵器開発や核実験によって、世界中にヒバクシャが存在し、現在も苦しんでいることを伝える」とあるが、ここにいうヒバクシャとは核兵器開発や核実験の放射性降下物の残留放射線によるヒバクシャである。長崎においても被爆時に被爆未指定地域にいたために被爆者と認められず被爆体験者と呼ばれる住民が存在し、現在なお残留放射線による原爆の後遺症に苦しんでいる。「長崎の被爆者との共通点や違いについても理解できる展示とする。」とあるが、「長崎の被爆者」の中には、被爆体験者のみならず、長崎の広い範囲で放射性降下物の残留放射線による被曝を受けた住民が存在することも理解できる展示にして欲しい。	C	長崎市が被告となっている被爆体験者訴訟との関連がある部分については、慎重に議論を重ねていきたいと考えています。ご意見いただきました内容は、今後の設計段階において検討する際の参考とさせていただきます。
185	第6章 展示更新 の方針	(4) 核兵器の 開発・ 現状	核兵器を巡る歴史や現状に係る展示については、これまでははなはだ怠慢でした。こんにちIT技術の発達で誰もが瞬時に世界中の情報を知ることができます。資料館としては、核兵器を巡る世界の情勢について、日々最新の情報を提供することが求められます。「最新の情報について即時性をもって反映できる展示としリニューアル後も、時代の変化に応じて、情報のアップデートに努める」とおり、最新の技術を駆使して取り組んでほしいと思います。例えば、館の入り口に大きなディスプレイを設け、核兵器を巡る最新のニュースを掲示するとともに、展示室には関連する情報や説明を展示することを検討してほしいと思います。	C	展示の詳細な内容については、今後の設計段階において、引き続き運営審議会・小委員会を中心に、慎重かつ丁寧な議論を重ねていきたいと考えています。いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への反映等	長崎市の考え方
186	第6章 展示更新 の方針	(4) 核兵器の開発・ 現状	<p>(4) 核兵器の開発の歴史・現状に関する展示 23pでは、「ウ 展示の主な内容」で「核兵器開発・核実験による世界の被害者達」とあるが、核兵器開発工場やウラン鉱山の周辺地域での被害も展示してはどうか。常設展示ではスペース的に難しい（デジタル表示を除く）場合は、企画展示でどうだろうか。</p> <p>23-24Pの(5) 核兵器をめぐる国際情勢に関する展示 との関係 22pの「(ウ) 「いかなる理由があっても原爆投下は正当化できない」、「核兵器は絶対に使用してはならない」という長崎のメッセージにつながる展示とする。」という点と関係して、諸外国での原爆投下への評価にどのようなものがあるのかを展示して考えてもらうこともあるのではと思う。アメリカだけでなく、韓国・中国や東南アジア諸国での理解のしかた等を常設展示として設定できないか。(7) Dコーナー、いこいの広場等 において、「振り返りや学びを深める機能」を目指した展示において、デジタルコンテンツで用意してもよいと思う。</p>	C	<p>第6章 展示更新の方針 1-(4)-イ-(ウ)として「核兵器開発や核実験によって世界中にヒバクシャが存在し、現在も苦しんでいることを伝える」、また、「長崎の被爆者との共通点や違いについても理解できる展示とする」、こととしています。その他いただいたご意見についても、今後の設計段階において検討する際の参考とさせていただきます。</p>
187	第6章 展示更新 の方針	(5) 核兵器をめぐる 国際情勢	<p>(5) 核兵器をめぐる国際情勢に関する展示： ①日本が敗戦後、核戦争に対する危機感から、当時の幣原喜重郎首相が日本国憲法9条（戦争放棄）を廃案し、マッカーサーに提案し、天皇が承認したことを展示する。敗戦当時、日本が核戦争による世界滅亡をいかに防ごうか考えていたことは、今に通じる。 ②戦争をなくすことも、核をなくすことも対立してはできないことを伝える展示とする。1985年米ソ間で「核戦争は許されない。そこに勝者はない」「お互いを敵とはみなさない」と初の核兵器削減が実現したことを展示する。</p>	C	<p>展示の詳細な内容については、今後の設計段階において、引き続き運営審議会・小委員会を中心に、慎重かつ丁寧な議論を重ねていきたいと考えています。いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への反映等	長崎市の考え方
188	第6章 展示更新 の方針	(5) 核兵器をめぐり国際情勢	<p>議案p23 (5) 核兵器をめぐり国際情勢に関する展示に関わって イ展示更新の方針の (ア) で「なぜ核軍縮が進まないのかという点を理解してもらおうため～ (略) ～ストーリー性のある展示とする」とあるが、核軍縮が進まない大きな理由として、核保有国や日本を含む核に固執する勢力が核抑止力にとらわれていることがあると考え、核抑止力論の立場に立つ国々が核廃絶の障壁となっていることや「核抑止力」論からの脱却を求める国連や非同盟諸国、核兵器禁止条約をリードしていった国々の主張や取り組みが伝わる展示となるよう工夫してほしい。</p> <p>原爆資料館として、核抑止力は間違っていると明確に伝わる展示を望みます。そうしてこそ資料館を訪れた人たちがなぜ核廃絶が進まないのか考えを深めることになるのではないかと。</p>	C	核抑止力については、長崎市長による平和宣言においても、核抑止への依存からの脱却を訴えているところです。今後の設計段階において検討する際の参考とさせていただきます。
189	第6章 展示更新 の方針	(5) 核兵器をめぐり国際情勢	○核兵器禁止条約の実情とこれからの日本の姿勢→(5)ウ	C	核兵器禁止条約については、第6章 展示更新の方針 1 - (6) -ウにおいて、核兵器禁止条約など核兵器廃絶に向けた動きに関する展示を充実させることとしています。いただいたご意見につきましては、今後の設計段階において検討する際の参考とさせていただきます。
190	第6章 展示更新 の方針	(6) 核兵器廃絶に向けた動き	<p>(6) 核兵器廃絶・核軍縮に向けた動きに関する展示：</p> <p>①核抑止を否定し核廃絶へ向かうべきとの長崎からのメッセージや核兵器禁止条約批准の呼びかけを展示する。</p> <p>②「核の平和利用」も核兵器同様脅威であることを展示する。</p>	C	<p>①核抑止力については、長崎市長による平和宣言においても、核抑止への依存からの脱却を訴えているところです。核兵器禁止条約については、第6章 展示更新の方針 1 - (6) -ウにおいて、核兵器禁止条約など核兵器廃絶に向けた動きに関する展示を充実させることとしています。いただいたご意見につきましては、今後の設計段階において検討する際の参考とさせていただきます。</p> <p>②核兵器廃絶に寄与するという館の設置目的に即した展示とする方向で検討してまいります。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
191	第6章 展示更新 の方針	(6) 核兵器 廃絶に向 けた動き	14ページの(3)の(課題)と(展示更新の方向性)の「核軍縮」を「核兵器 廃絶」に全て改める。「未来への希望」は「核軍縮」ではなく「核兵器廃絶」で ある。	A	14ページについては、小委員会での委員の発言の趣旨を踏まえて 「小委員会各論点のまとめ」として、議論の結果を記載しているも のであり、修正は行いませんが、第6章 展示更新の方針1－ (6) 項目名については、「・核軍縮」の表記を削除します。また 第6章 展示更新の方針1－(6)－イ－(ウ)「核軍縮」を 「核兵器廃絶」へ修正します。
192	第6章 展示更新 の方針	(6) 核兵器 廃絶に向 けた動き	核兵器は「廃絶しかない」ことの強調をお願いします。	C	展示の詳細な内容については、今後の設計段階において、引き続 き運営審議会・小委員会を中心に、慎重かつ丁寧な議論を重ね ていきたいと考えています。いただいたご意見は、今後の検討の参 考とさせていただきます。
193	第6章 展示更新 の方針	(6) 核兵器 廃絶に向 けた動き	P24 (6) 核兵器廃絶・核軍縮に向けた動きに関する展示(意見)私た ちは核兵器を無くしていくことを求めており、長崎市も一貫してこの間の平和 宣言や海外へ向けたメッセージでも核兵器廃絶を主張していることから、核 軍縮については、削除してほしい。 イ 展示更新の内容(ウ)核軍縮に向けた取り組みが続いていることを示す ことで、未来への希望を持てるような展示とする。(意見)ここもあえて核軍 縮という言葉を入れているが、その意図は何か。私たちは核兵器廃絶を求め ているのであって、核を残す世界を求めているのではない。この文書も「核兵 器廃絶に向けた取り組み…」と訂正を求める。	A	ご意見のとおり、第6章 展示更新の方針1－(6) 項目名に ついては、「・核軍縮」の表記を削除します。また第6章 展示更 新の方針1－(6)－イ－(ウ)「核軍縮」を「核兵器廃絶」へ 修正します。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
194	第6章 展示更新 の方針	(6) 核兵器 廃絶に向け た動き	核廃絶を求める在り方、態度について1.核兵器の非人道性の強調①都市を丸ごと破壊し、非戦闘員の市民を無差別爆撃する兵器。②癌など放射能障害、DNA変異による次世代への影響。③地球規模の環境汚染。2.核抑止論への積極的批判と、我が国の核兵器禁止条約批准を求める態度 製造、使用はもちろん、威嚇をも禁じた核兵器禁止条約。ロシアにより核の威嚇がなされ、抑止論は有名無実化に。また、戦争の長期化により、「武力で平和は守れない」ことが証明され、核廃絶は核兵器禁止条約の批准の道しが残っていない。	C	展示の詳細な内容については、今後の設計段階において、引き続き運営審議会・小委員会を中心に、慎重かつ丁寧な議論を重ねていきたいと考えています。いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。
195	第6章 展示更新 の方針	(6) 核兵器 廃絶に向け た動き	長崎の訴えが核兵器廃絶であるのに「核兵器がある世界に生きる」「核軍縮が未来への希望」などのメッセージでは、「核兵器を廃絶しよう」という長崎のメッセージは世界に伝わらない。	A	「今も核兵器のある世界に生きる当事者」についての表現は、今もなお核兵器の存在する世界の現状を客観的に表現したものであり、現状を肯定するものではありませんので、ご理解をお願いします。 「核軍縮が未来への希望」は、第6章 展示更新の方針 1－(6)－イ－(ウ)「核軍縮に向けた取り組みが続いていることを示すことで、未来への希望を持てるような展示とする。」を指していると思われませんが、このうち、「核軍縮」については「核兵器廃絶」へ修正します。
196	第6章 展示更新 の方針	(7) D・ いこいの広 場等	未来を見つめて、ユース代表団や高校生平和大使など若い世代の活動について展示する。	C	展示の詳細な内容については、今後の設計段階において、引き続き運営審議会・小委員会を中心に、慎重かつ丁寧な議論を重ねていきたいと考えています。いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。
197	第6章 展示更新 の方針	(7) D・ いこいの広 場等	Dコーナーについて、ビデオルームの扉は上映中のためかいつも閉められているが、常時開けていてはどうか。スロープを上りきった場所から少しでも上映内容が見えれば興味を持つ人も出てくると考える。	C	ビデオルームは現在、音響や照明の影響等を考慮し、片側のみ解放していますが、ビデオルーム内の活用方法も含め、今後の検討の参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
198	第6章 展示更新 の方針	(7) D・ いこいの広 場等	長崎市内と市外でも平和教育についての考え方が違うと聞いたことがあります。平和教育を公教育の中で行っていることは長崎が誇れることですので、もし可能であれば長崎市内の平和教育の実態のコーナーも設けていただきたいです。長崎の平和文化の後押しとして説得力のある内容になると思います。	A	第6章 展示更新の方針1-(7)において、「来館者が自ら平和のためにできることを考え、行動してもらえるきっかけを提供する」ことを目指しており、本市における様々な平和への取組みを来館者に知っていただくことは重要であると考えています。いただいたご意見を踏まえ、第6章 展示更新の方針1-(7)-ウ 展示の主な内容として、「長崎市の平和教育の取組み」を追加します。
199	第6章 展示更新 の方針	(7) D・ いこいの広 場等	長崎の復興のことについて話すと、「カッコいい」「日本人すごい」と希望を持ったまなざしをしていました。若い世代が正しく学び、努力・貢献した人々に対して、敬意と感謝の気持ちを抱けるような展示を期待しています。	B	第6章 展示更新の方針1-(7)-ウにおいて、長崎の復興の歴史についても掲げており、ご意見の趣旨は素案の方向性と同一であると認識しています。展示の詳細な内容については、今後の設計段階において検討してまいります。
200	第6章 展示更新 の方針	(7) D・ いこいの広 場等	現在でも戦争が起こっていることに本当に心を痛めています。絶対に兵器による罪のない人への攻撃は許されません。私の母は8歳で弟以外すべての家族を原爆で亡くしました。当時7万人前後の人が亡くなったと思うと想像を絶します。手記に「8歳の子どもが何をしたというのでしょうか？」と書いてあったことが忘れられません。原爆投下時大人たちが100年は草木も生えないと聞いたが、すぐにジャガイモの芽が出た。大人はうそつきと思った。と言っていました。長崎の復興の歴史のコーナーがありますが、若い世代に「人間の復興力」「助け合うことの大切さ」をしっかり伝えてほしいです。 上皇后美智子様がお誕生日のメッセージに決して忘れてはならないことの中に、広島、長崎の原爆のことがありました。私は嬉しかったです。天皇陛下の祈りの中で、遅く復興していく日本人の素晴らしさも感じさせる1ページも織り込んでいただけたらと願います。	C	第6章 展示更新の方針1-(7)-ウにおいて、長崎の復興の歴史についても掲げており、展示の充実に向けて検討してまいります。いただいたご意見につきましては、今後の設計における検討の参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
201	第6章 展示更新 の方針	(7) D・ いこいの広 場等	第6章展示更新の方針○自分ごととして捉えられるよう、「いつ自分の身にも起こりうる現実性」を表示→(7)イ(エ) ※後日でも意見や感想を投稿できる仕組みを(メルアド等)	B	第6章 展示更新の方針1-(1)-アとして、展示のねらいを記載していますが、若い世代にもわかりやすい、伝わりやすい表現として「戦争を知らない世代でも、戦争を他人事ではなく、自分の身にも起こりうることとして捉えられるようにする」と表現しており、ご意見の趣旨は素案の方向性と同一であると認識しています。 また、来館者が自分の想いや考えを残せる仕組みとしては、第6章 展示更新の方針1-(7)-イ(ア)において「双方向発信の強化として、一般の来館者が自分の思いや考えを残せ、外部からも閲覧、コメントができるようなコミュニケーションツール」を検討してまいります。
202	第6章 展示更新 の方針	(7) D・ いこいの広 場等	○展示で手薄になりそうな ナガサキの交流の歴史(復興)についてもしっかり伝える・「平和の文化」について俯瞰した視点で「敵味方なく原子爆弾は、大きな不幸をもたらすこと、被爆地長崎の人々に心を寄せた米国GHQの司令官 ビクター・デルノア氏の心がその子孫に引き継がれていることも知ってもらい、平和の文化=『人を思いやる心』は、あの原爆の惨禍でもあったことを伝えるような展示を是非、検討していただきたいです。例) - 2018年、米国メリーランド大学図書館より長崎市へ寄贈された「ビクター・デルノア・ペーパー」(プランゲ文庫所蔵) =デルノア氏関連の書類、手紙、過去の新聞記事、古写真などのデジタルコレクションに加え、最新のデルノア氏の娘 パトリアさんのインタビュー映像、デルノア氏と長崎市民との友情が伝わる新しい資料、長崎市内に現存するデルノア通りの看板写真、説明書きなどを紹介する。	C	第6章 展示更新の方針1-(7)-ウに記載のとおり、長崎の復興の歴史についても充実させるよう検討してまいります。いただいたご意見につきましては、今後の設計における検討の参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
203	第6章 展示更新 の方針	(7) D・ いこいの広 場等	以前市が復興の歴史を展示にされているのを見て感動し、実際担任として子供たちに話した時に、自分たちの先祖が長崎を離れず復興につくってくさったから今の自分があるのだと思った。誇りに思うし、もっと長崎が好きになったと感想で出てきました。そのような長崎への誇りと愛着が子供たちを育み、平和を希求する精神を養うことに繋がると思いますので、復興の歴史も未来志向の展示として載せていただきたいと感じました。	B	第6章 展示更新の方針1-(7)-ウにおいて、長崎の復興の歴史についても掲げており、ご意見の趣旨は素案の方向性と同じであると認識しています。展示の詳細な内容については、今後の設計段階において検討してまいります。
204	第6章 展示更新 の方針	(8) 共通 する内容・ 配置・動線	永井隆博士のコーナーは、永井隆記念館に展示を集約する。資料館の永井博士のコーナーを見て興味を持ち祈念館に足を運ぶ方は多いと思いますので、このコーナーをなくしてしまうことについては、もっと様々な立場の意見を吸い上げたほうがよいのではないのでしょうか。 いつ核を用いた戦争が起きてもおかしくない現在、被爆地の役割がますます重要になってきていると思います。祈ることしかできませんが、長崎には平和を祈ることが生活の中に文化として根付いていることをどうぞ発信ください。	C	永井隆博士コーナーについては、現在の原爆資料館の開館と合わせて展示（永井隆記念館の全面改築（平成12年）前）してまいりましたが、現在では記念館において体系的に資料が整備されていることから、記念館に資料を集約のうえ、原爆資料館から記念館へ多くの来館者を誘導し、見学していただけるように検討してまいります。
205	第6章 展示更新 の方針	(8) 共通 する内容・ 配置・動線	広く外国の方に伝わるように4か国語標記に→(8)イ(ウ)	C	第6章 展示更新の方針1-(8)-イ(ウ)に記載のとおり、多言語対応の強化を行うこととしており、デジタル技術の活用も含め、より多くの外国の方にわかりやすい展示を目指してまいります。
206	第6章 展示更新 の方針	(8) 共通 する内容・ 配置・動線	要望として、Dコーナーに置いてある「核兵器禁止条約ってなあに？」チラシと、出口に置いてあった「周辺被爆遺構地図」を常備してほしい。	D	現状の展示に関するご要望については、指定管理者とも調整し、対応いたします。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への反映等	長崎市の考え方
207	第6章 展示更新 の方針	(8) 共通 する内容・ 配置・動線	<p>・P25 (8) イ (エ) わかりやすい館内サイン、情報過多を避け、読みやすい解説パネル、多言語対応など、来館者の誰もが容易に理解でき、行動できる表示を行うについて</p> <p>現在、入館者でスムーズにチケット売りに降りて行く人の方が少なく、受付の方が誘導している。誘導なしにチケット売り場に行けるようサインの改善が必要だ。</p>	C	来館者に対する案内については、これまでも適宜改善を図ってまいりましたが、引き続きわかりやすい案内表示について検討してまいります。
208	第6章 展示更新 の方針	(8) 共通 する内容・ 配置・動線	<p>・P25 (8) イ (カ) 永井隆博士のコーナーは、永井隆記念館に展示を集約するという点について</p> <p>永井隆記念館に行く方にとってはそれでよいだろうが、外国の方や県外の方で永井隆記念館に行かない方は多いのではないかと。「被爆者の訴え」のコーナーなどで永井隆博士の訴えについて最低限の展示はすべきだ。広さが不足するのであれば、Cコーナーでの入館者があまり観ないであろう過去の戦争の歴史を圧縮してもよいのではないかと。</p>	C	永井隆博士コーナーについては、現在の原爆資料館の開館と合わせて展示（永井隆記念館の全面改築（平成12年）前）してまいりましたが、現在では記念館において体系的に資料が整備されていることから、記念館に資料を集約のうえ、原爆資料館から記念館へ多くの来館者を誘導し、見学していただけるように検討してまいります。
209	第7章 展示配置・ 手法		7 広島資料館資料館では「コロナのため内部の案内はできません」とのこと、一人で回ったが、写真に対する説明が非常にわかりやすかった。これなら案内人なしでもかなりの内容を理解できるなと感じた。タイトルと説明文の表示改善を重ねて希望したい。	B	展示のタイトルや解説文の表示については、第6章 展示更新の方針1-(8)-イ(エ)において、「わかりやすい館内サイン、情報過多を避け、読みやすい解説パネル、多言語対応など、来館者の誰もが容易に理解でき行動できる表示を行う」としており、ご意見の趣旨は素案の方向性と同じであると認識しています。展示の詳細な内容については、今後の設計段階において検討してまいります。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への反映等	長崎市の考え方
210	第7章 展示配置・ 手法		【該当ページ・行数等】p29 2 展示手法の検討 (1) デジタル技術を活用した展示の検討【意見内容】長崎県保険医協会では米国マンハッタン調査団の残留放射線測定データ、1950年代にABCCが行った雨に関する聞き取り調査結果、1999年に長崎県、市が実施した被爆未指定地域の証言調査の結果をGoogle Mapに記録したデジタルマップを作成した。2023年5月に公開後、2024年1月時点で再生回数は1万4千回を超え、関心の高さを示している。リンクを参照することで原爆資料館からも閲覧することができるので活用していただきたい。	C	展示の詳細な内容については、今後の設計段階において、引き続き運営審議会・小委員会を中心に、慎重かつ丁寧な議論を重ねていきたいと考えています。いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。
211	第7章 展示配置・ 手法		6. 1 展示の配置・動線の検討 に関連して 26-28pの配置として、 「(5) 核兵器をめぐる国際情勢に関する展示」(あるいは「(6) 核兵器廃絶・核軍縮に向けた動きに関する展示」の半分くらいも) をDコーナーのビデオルームに移動させてもいいのではないかと。(5)で積極的にデジタルコンテンツを利用することで、アップデートしやすくなるのではないかと、思われる。	C	核兵器をめぐる国際情勢に関する展示については、まずは、Cコーナーの一部を構成する展示として検討を進めてまいります。また、Dコーナーやビデオルームにおける各種の情報発信の詳細な内容についても、今後の設計において検討していくこととなりますが、より学びを深める場として、関連する情報を取り扱うことも考えられますので、いただいたご意見についても検討の際の参考とさせていただきます。
212	第7章 展示配置・ 手法		「被爆」の立場での体験的展示で臨場感を出すなどクローズアップの視点を技術的に高める必要性 例) - 体験型インストール、AR、VR、プロジェクションマッピングなど新しい技術を活用する。- 被爆遺物(軍服、頭巾、穴のあいた子供服など実際の衣服など)に当事者のインタビュー動画や写真のスライドを映し出すなど立体的な展示で被爆を身近に感じてもらえるように工夫する。個々人の8月9日前後のストーリーを視覚的に表現する。- 修学旅行生をはじめ、若い人たちがSNSなどで原爆資料館で感じたことを発信できるような撮影場所(背景は、長崎の街並み等)を設け、記録に残す仕組みを作る。	C	デジタル技術の活用については、今後、具体化された展示内容によって活用するデジタル技術、演出手法を検討していく必要があります。今後の設計において、具体的な展示内容の検討とともにデジタル技術の活用についても検討してまいります。いただいたご意見については、検討の際の参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への反映等	長崎市の考え方
213	第8章 中長期的な取組み		<p>○平和会館・国立原爆犠牲者追悼平和祈念館との一体的運用 現在、平和会館には1階を長崎市野口彌太郎記念美術館、地下1階を長崎市歴史民俗資料館、3階をホールとして使用しているが、前2者は原爆資料館と併設されているメリットが見えにくい。これらは歴史的遺産の多い地区に移転し（例えば、長崎市は洋館等を活用した事業提案の募集を行っており、その対象として10件、16棟の歴史的建造物を対象として挙げている）、その跡に、原爆資料館と連携した機能をもった施設をいれてはどうか。その施設の例としては以下のようなものが考えられる。・修学旅行生・一般旅行者のビジターセンター：周辺の被爆遺構の概要を把握でき、フィールドワークの事前指導もしやすくなる。特に小学生の場合、資料館そのものの内容の難易度や展示物の残酷度などの問題もあり、発達段階に見合った伝え方を可能にする施設も必要だと考える。博物館でよく用いられる児童用のワークシートやインタラクティブな視聴覚機器なども導入がしやすくなるだろう。また、資料館は今や修学旅行生の来訪増加などで混雑状態のときもある。その解決の一助ともなるはずだ。その点では、平和会館ホールを修学旅行生に開放して動線を作り、稼働率を高めることも一案であろう。・平和教育資料センター：長崎原爆を中心とした平和教育資料を揃え、修学旅行の下見に来た教員や県内の平和教育担当教師の相談に乗れる機能を持つ。あるいは出張授業等のアウトリーチの世話をする。</p>	C	<p>ご意見いただきました内容は、第8章 中長期的な取組みー2 将来的な建替えや大規模改修に向けた対応のとおり、今後、隣接する平和会館も含めた原爆資料館のあり方について検討していく際の参考とさせていただきます。</p> <p>また、追悼平和祈念館については、現在も資料館見学後は祈念館に誘導するよう案内表示を設置していますが、今後も原爆資料館で被爆の実相、核兵器をめぐる現状を知り、追悼祈念館で祈る、という一体的な運用となるよう努めてまいります。</p>
214	第8章 中長期的な取組み		<p>施設の改修・改善 基本計画にはありませんが、施設のハード・ソフトの改修・改善も手掛けてほしいと思います。例えば、どのフロアを「1階」とするのか（そもそも1階、という言い方が分かりやすいのか）、駐車場や追悼祈念館・平和会館への回遊案内方法、チケット売り場の場所や方法（電子化？）、表示の多言語化。また、いこいの広場から見える斜面はいつも草が茂ったりして酷い状況です。「どう見られているのか」という視点が必要だと思います。</p>	C	<p>今後の中長期的な取組みを進めるうえで、参考とさせていただきます。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
215	第8章 中長期的 な取組み		【該当ページ・行数等】P31 1 被爆80周年以降も継続して取り組むもの (1) 貴重な証言の収集・集約、被爆資料の散逸防止【意見内容】 1999年に長崎県、市が実施した被爆未指定地域の証言調査には7,025件の証言が含まれている。国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館所蔵の被爆体験記の中にも被爆未指定地域住民の証言が含まれ、長崎市で調査中である。被爆地域住民の証言、被爆者健康手帳をもつ被爆者の証言だけでなく、被爆未指定地域住民の証言も貴重である。同様に収集・集約の対象として欲しい。	D	現在も、被爆者健康手帳の有無に関わらず、被爆証言の収集・集約の対象としています。
216	第8章 中長期的 な取組み		31p以降の「第8章 中長期的な取組み」について、(1)にある「被爆資料の散逸防止」については、一時的な保存場所の確保を強調してほしい。被爆者または遺族からの史料の寄贈あるいは寄託先をとりあえず用意しておくという課題がある。家族写真など残りやすいものを気軽に寄贈する機関・あて先を確保したいということである。	C	今後の中長期的な取組みを進めるうえで、参考とさせていただきます。
217	その他		以前案内人として暫く活動していた者です。永井博士のコーナーの反対側にあった、丸木夫妻の「からす」の絵がいつの間にか撤去されました。大変インパクトの強いもので、熱心な見学者にはかならず説明をし、感銘を与えていました。 今回の展示更新にあたり、復活掲示をしていただくコメントを差し上げました。	D	ご意見いただきました箇所では、被爆者の訴えの展示としてより多くの資料を展示するため、平成27年より、被爆者の手記、原爆の絵などをモニターで閲覧できるようにしています。 「からす」の絵は、現在も、モニターで見ることができますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への反映等	長崎市の考え方
218	その他		<p>国連憲章の展示も重要のように思います。とりわけ前文の「基本的人権と人間の尊厳及び価値と男女及び大小各国の同権とに関する信念をあらためて確認し、正義と条約その他の国際法の源泉から生ずる義務の尊重とを維持することができる条件を確立し、一層大きな自由の中で社会的進歩と生活水準の向上とを促進すること並びに、このために、寛容を実行し、且つ、善良な隣人として互に平和に生活し、国際の平和及び安全を維持する」のメッセージを伝えて欲しいと願います。国連憲章に則っての平和の使者を育成し得る資料館展示の基本計画策定を願います。</p>	D	<p>国連憲章の理念の重要性は認識していますが、原爆資料館の展示方針として直接明示することは、館の扱うテーマの範囲を超え、困難であると考えます。</p>
219	その他		<p>物の展示がら列的で、何を問いかけているかが分かりにくい。人と物を結びつけるべきである。</p>	C	<p>今後の中長期的な取組みを進めるうえで、参考とさせていただきます。</p>
220	その他		<p>核問題を学べるセンター化をめざす必要がある。</p>	D	<p>長崎市では、現代の核兵器をめぐる国際情勢などについて、長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）や関係機関とも連携を取り、情報収集に努めています。今回の展示更新においても、第6章 展示更新の方針1－（6）のとおり、核兵器廃絶に向けた動きに関する展示を充実させるとともに、第6章 展示更新の方針1－（7）のとおり、より深く学びたい人が発展的に学習できるデジタルコンテンツの検討や平和をつくるための新しいものが生まれる拠点を目指してまいります。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案へ の反映等	長崎市の考え方
221	その他		<p>○平和教育プログラム開発部署の設置 「平和教育資料センター」は部・課クラスの部署として設置し、教育委員会等とも連携し、教員研修にも資するものにしたい。そしてそこから生まれた成果は、全国からアクセスできるよう、開放性を高めて欲しい。学習指導要領では探究学習が正式カリキュラムに取り入れられ、今後、調べ学習などの需要は一層たかまるものと考えられる。</p>	C	<p>長崎市の平和教育としては、現在、教育委員会において各教科・道徳・特活・総合的な学習の時間における指導及び原爆被爆都市としての特殊性を生かした指導、教職員への研修を行っています。また、被爆継承課において、市内の小中学校生徒を対象とした副読本「平和ナガサキ」を発行し、教育委員会とも連携して活用しており、一定の成果をあげているものと考えています。ご要望いただきましたご意見については、今後の取組みにおいて参考とさせていただきます。</p>
222	その他		<p>【Aコーナー、Bコーナーの縮小に反対します】 長崎市の原爆投下には、色々な側面があると思いますが、原爆投下前の長崎市がどんな街で、投下後にどれだけ変わってしまったのか、どんな被害があったか、その残虐性を示すのが、A、Bコーナーだと思います。そこが曖昧なままでは、二度とこのことを繰り返してはならない、という不戦の強い誓いも生まれてこないはず。逆に言えば、原爆投下の非人道性、悲惨さが伝わり、絶対に繰り返さないという決意につながらなければ、この資料館の意味はない、と考えます。なぜ、そんな大事な資料、Aコーナー、Bコーナーを縮小する方向に更新しようとしているのですか。一度、無くしたら二度と復活することは無いであろう、その一次資料を減らすことに反対します。C、Dコーナーの未来につながる企画も大事ですが、それは他の場所でも可能なことです。A、Bコーナーを縮小せずしっかりと残して下さい。それが、唯一の被爆国である、日本人の私たちが世界に向けて発信できる大事な任務であり、日本だからこそやらねばならない最重要な任務と思います。多くの人に視覚的に訴えるのが、原爆資料館の使命だと思いますので、そこを遂行していただきたいと思えます。</p>	D	<p>第2章 基本計画の概要3-(1) 取組みの優先順位及び (2) 更新対象のエリアに記載のとおり、取組みの優先順位として、Cコーナー及びDコーナーを中心に更新を行うこととしています。Aコーナー及びBコーナーについては、現在、被爆資料の整理と各資料にまつわる背景やエピソードの追加聞き取り調査を行っており、資料の入れ替え等の調整にも時間を要するため、展示更新後も継続的に検討・対応していくこととしています。 いずれにしても、Aコーナー及びBコーナーは、被爆の実相を伝える中心的な展示であり、縮小する考えはありません。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
223	その他		<p>長崎の特徴として、居留地エリアや出島に見られるような、多文化性があげられると思います。出島での貿易をきっかけに、多くの外国の方を受け入れてきた長崎の寛容性、日露戦争の前後の、長崎市内にある、ロシア領地をめぐる長崎とロシアの交流の歴史など、長崎のこうした特徴には、核廃絶へ繋がる、大事な精神性が含まれていると考えます。また、長崎独自のこうした特徴を展示することで、広島とは違った角度で、観覧者に平和について思いを馳せるきっかけを与えることができます。</p> <p>以上です。現在、「平和案内人」育成講座も受講中でしたので、充実の展示内容になることを願っております。</p>	D	<p>長崎市の持つ「多文化性」について現在の展示構成の中で直接的に表現することは、困難であると考えますが、長崎歴史文化博物館や隣接する平和会館内にあります長崎市歴史民俗資料館等とあわせて見学いただくことで、理解を深めていただくことが可能ではないかと考えますので、今後も館同士の連携を深めてまいります。</p>
224	その他		<p>本年7月に個人的に広島原爆資料館を個人的に見学した時の感想と、平和案内人として資料館内の案内をしている際の感想をもとに意見を申し述べます。</p> <p>1 観覧券売り場の場所がわからず、B1 受付に聞いている人が多い。B2の券売り場をロビーに移設すれば（企画展示室やDコーナー等への通路を妨げないよう）展示スペースの拡大にもつながるのではないかと。ロビーへの団体客の集合禁止は機能しているので混乱はないと考える。</p>	C	<p>来館者に対する案内については、これまでも適宜改善を図ってまいりましたが、引き続きわかりやすい案内表示について検討してまいります。観覧券売り場の移設については、今後の中長期的な取組みを進めるうえで、参考とさせていただきます。</p>
225	その他		<p>券売り場のスペースを「被爆前と後の長崎」のコーナーとして、まず①被爆時計②原爆炸裂動画③被爆前の長崎航空写真④被爆後の長崎（③と同じ場所）⑤その他のもののビフォーアフター⑥長崎の立体模型等を中心に展示する。（原爆の図はそのままでいいのではないかと）AコーナーとBコーナーを合わせたスペースに現状のBコーナーの展示物＋アルファをタイトルと4か国語の説明（できるだけ詳しくわかりやすく）を掲示する。Cコーナーから続くスロープをコーナーの延長として展示する。なお広島原爆ドームの模型を展示するならば、被爆後の浦上天主堂の模型も並べて展示してほしい。また「焼き場に立つ少年」の展示はBコーナーへの移設を希望する。</p>	C	<p>導入展示に関するご意見、Cコーナーに関するご意見ともに、今後の設計における検討において、参考とさせていただきます。被爆の実相に関するAコーナー及びBコーナーについては、現在、被爆資料の整理と各資料にまつわる背景やエピソードの追加聞き取り調査を行っており、展示への反映には時間を要します。現在、学芸員を中心に調査・情報の整理を進めており、今回いただきましたご意見については、今後の検討の際に参考とさせていただきます。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への反映等	長崎市の考え方
226	その他		これは展示とは関係ありませんが、そして実現が難しいかも知れませんが、核保有国の首脳を対象にしたセミナーを企画しては如何でしょうか。核兵器の抑止力を主張するならば、核兵器の恐ろしさを知っておく必要があります。全員の参加はもちろん無理でしょうが、数名の参加はあるかも知れません。オンライン方式でもいいかと思っています。	D	長崎市では広島市とともに核保有国をはじめとした各国政府のリーダーに対して、被爆の実相に直接触れていただくために被爆地訪問要請を行ってまいりました。令和5年5月に長崎で開催されたG7保健相会合では、4か国の閣僚らに原爆資料館を訪れていただき、また、平和公園において先進7か国及びEUの閣僚が初めて揃っての献花と黙とうが行われました。さらに、被爆の実相に触れていただく機会を創出するために、長崎市では出島メッセ内の展示ブースにおいて、「被爆の実相を紹介するバナーの展示」を実施したところです。 今後もあらゆる機会を捉えて、各国政府リーダーに対して被爆地訪問の働きかけを行ってまいりたいと考えています。
227	その他		資料館に展示されている松添博氏の絵「悲しき別れ-茶毘」と屋上庭園の「ふりそでの少女像」との関係をきちんと明記して欲しい。松添氏が自ら描いた二人の少女を探し当てた強い思いと、京都府綾部市の中学生の少女の母福留志なさんとの交流から発展して二人の少女の銅像が作られた経緯を伝えることはできないでしょうか。資料館見学の後、自然と屋上庭園へ足が向くような形を望みます。像の設置場所を故伊藤一長市長が決めてくださり、設置から20年毎年8月9日には語り部活動をしていらっしゃる制作者の余江勝彦先生、綾部中元教員の伊達順子先生のお姿に接しながら、文字として残していただけないものかと切に願います。	C	今後の中長期的な取組みを進めるうえで、参考とさせていただきます。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
228	その他		<p>長崎の原爆資料館が世界で、そして未来に、どのような場所・存在でありたいのか、しっかり検討して展示更新をしていただきたいと思っています。様々な論争や政治的な立場の違いに引きずられることなく、自由で核兵器廃絶と平和を訴え続けられる資料館になってほしいと思います。</p> <p>原爆被災の精神・社会的側面の展示の充実 現在の展示は、物理的破壊（熱線・爆風・火災・放射線）、身体的被害に関するものがほとんどです。被爆から現在に至るまでの長期間、かつ複合的に起きた精神的、社会的な被害はあまり見えてきません。1つの爆弾がいかに長期間、継続的に、複合的に被害をもたらすのかを多角的に展示する必要があると思います。</p>	C	<p>原爆被災の精神・社会的側面に関するご意見については、放射線等に関する展示の具体的検討の際に参考とさせていただきます。また、放射線等に関する展示を除くAコーナー及びBコーナーについては、現在、被爆資料の整理と各資料にまつわる背景やエピソードの追加聞き取り調査を行っており、展示への反映には時間を要します。現在、学芸員を中心に調査・情報の整理を進めており、今回いただきましたご意見については、今後の検討の際に参考とさせていただきます。</p>
229	その他		<p>展示資料のキャプション・情報の充実 例えばズボンの焼け残りでも、そのズボンは医学生が親戚のおさがりで着ていたもので、教室の焼け跡で家族が見つけた、など展示されている資料には犠牲者や家族のストーリーがあります。キャプションを充実させたり、デジタル技術などを利用して、より立体的に浮かび上がる展示方法を検討してください。</p>	C	<p>被爆の実相に関するAコーナー及びBコーナーについては、現在、被爆資料の整理と各資料にまつわる背景やエピソードの追加聞き取り調査を行っており、展示への反映には時間を要します。現在、学芸員を中心に調査・情報の整理を進めており、今回いただきましたご意見については、今後の検討の際に参考とさせていただきます。</p>
230	その他		<p>専門家（学芸員）と称する方の存在もほしいです。（ヒロシマにはいます。）</p>	D	<p>学芸員については、現在も原爆資料館に配置しておりますが、今後の展示更新においても専属の学芸員を配置し、中心となって検討を進めていきたいと考えております。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
231	その他		<p>○私は、微力ですが、平和案内人として原爆資料館常駐や被爆遺構等の碑巡りで、県内外から被爆の実相を学びに来る修学旅行生等へ案内している一人です。</p> <p>○資料館の案内機会が多く、展示物への見識と問題点を持っておられる平和案内人の意見等を聞く場を設けて頂くことも必要かと思います。・常設展示Aコーナー混雑の解消・ボックスカーの写真差し替え（尾翼のマークN・R）・ファットマン模型のプルトニウム大きさ検証（少し大きいのでは・・・）・長崎原爆遺跡国史跡指定を紹介するコーナー設置・建物老朽化が原因でしょうか、館内の雨漏り解消・・・など等</p> <p>○展示内容とは別件ですが「観覧料を入館料」への変更検討を希望します。戦争や原爆の悲惨さを伝える場です。観覧より入館の方が望ましいと思います。広島原爆資料館も改められていますが、長崎も良い機会ではないでしょうか。</p>	C	<p>展示更新により目指す姿の実現のためには、常設展示をご案内いただいている「平和案内人」の皆さまとの連携が不可欠になってまいります。そのため、今後も必要な連携、情報共有に努めてまいります。</p> <p>また、いただいたご意見のうち、被爆の実相に関するAコーナー及びBコーナーについては、現在、被爆資料の整理と各資料にまつわる背景やエピソードの追加聞き取り調査を行っており、展示への反映には時間を要します。現在、学芸員を中心に調査・情報の整理を進めており、今回いただきましたご意見については、今後の検討の際に参考とさせていただきます。</p> <p>施設の管理に関するご意見については、今後の館の運営にあたって、参考とさせていただきます。</p> <p>国指定史跡「長崎原爆遺跡」の紹介については、第6章 展示更新の方針 1－（7）－ウのとおり、原爆資料館から来館者を誘導する機能を検討することとしています。</p> <p>なお、「観覧料」の表記については、長崎原爆資料館内にあるホールや図書室の利用者等も含めた「入館者」と常設展示の「観覧者」を区別しており、それに伴い常設展示の見学に係る料金を「観覧料」とし、長崎原爆資料館条例でも定めているところです。</p>
232	その他		<p>団体など来館者が多いときには混雑して、特に肝心のBゾーンでは全部を見られないことがあります。隣の平和会館を活用するなど、スペースの拡張・展示の整理をお願いします。</p>	C	<p>隣接する平和会館を含めた原爆資料館のあり方については、第8章 中長期的な取組み－2に記載のとおり将来的な建替えや大規模改修に向けた対応の中で検討してまいります。</p>

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
233	その他		「自分ごと」として感じてもらえるためには、否応なく戦争に巻き込まれた市民生活＝徴兵・学徒動員、配給、建物疎開、県内外からの学徒学童勤労動員・女子挺身隊、中国朝鮮からの勤労動員・・・の知識は必須だと思います。憲法がうたう戦争に対する深い反省は展示の大前提でしょう。	C	被爆の実相に関するAコーナー及びBコーナーについては、現在、被爆資料の整理と各資料にまつわる背景やエピソードの追加聞き取り調査を行っており、展示への反映には時間を要します。現在、学芸員を中心に調査・情報の整理を進めており、今回いただきましたご意見については、今後の検討の際に参考とさせていただきます。
234	その他		黒焦げの弁当箱、衣類など、市民から提供された貴重な遺物は、説明があっさりすぎです。もっと身近に感じられる詳しい記述を希望します。多数「死蔵」されていると報道されている遺物の調査活用を切望します。	C	被爆の実相に関するAコーナー及びBコーナーについては、現在、被爆資料の整理と各資料にまつわる背景やエピソードの追加聞き取り調査を行っており、展示への反映には時間を要します。現在、学芸員を中心に調査・情報の整理を進めており、今回いただきましたご意見については、今後の検討の際に参考とさせていただきます。
235	その他		原爆反対署名がありますが、何故、中国、ロシア向けに表明をしないのでしょうか？	D	「原爆反対署名」が、どういった内容を指したご意見であるのかが分かりかねますが、核兵器の開発など、保有を前提とした動きへの反対を表明する取組みといたしましては、長崎市では、核保有国も加盟するNPTの再検討会議に被爆地長崎を代表して市長が出席し、核保有国を含む各国政府代表に対して核兵器廃絶を直接訴えています。 また、中国・ロシアをはじめ核保有国に対して、核実験・臨界前核実験等への抗議文・要請文を発出しています。ロシアがウクライナ侵攻に踏み切り、核兵器の使用を示唆した一連の行為に対しては、被爆地長崎として、「第三の戦争被爆地を生んではならない」との強い危機感を表すために、市長コメントを発出するとともに、広島市と連名で抗議文を送付いたしました。

No.	項目 (大)	項目 (中)	意見の内容	最終案への 反映等	長崎市の考え方
236	その他		長崎原爆の特徴（長崎原爆がプルトニウム爆弾であること、長崎への原爆投下決定の理由、当時の日本の対応など）を示し、考えさせる展示にすることを求めます。	C	長崎原爆の特徴については、現在もBコーナーの展示において触れています。今回いただいたご意見については、今後の中長期的な取組みを進めるうえで、参考とさせていただきます。
237	その他		戦争を自分の事として捉えて、「二度と帰ってこない命や生活に光を当てる展示」の充実も重要です。Bコーナーの「被爆の実相」では、実物資料、写真などのよって、破壊力の大きさを伝えるだけでなく、被害に遭われた方ひとりひとりの顔が見えるような展示を検討すべきです。広島平和記念資料館の試みが参考になると思いますので、「被爆資料にかかる聞き取り調査」の完了を待つだけでなく、既存の資料・出版物に基づいて、展示の充実を図るべきだと思います。	C	被爆の実相に関するAコーナー及びBコーナーについては、現在、被爆資料の整理と各資料にまつわる背景やエピソードの追加聞き取り調査を行っており、展示への反映には時間を要します。現在、学芸員を中心に調査・情報の整理を進めており、今回いただきましたご意見については、今後の検討の際に参考とさせていただきます。